

令和 3 年 度

事業報告書

自：令和 3 年 4 月 1 日

至：令和 4 年 3 月 3 1 日

社会福祉法人 つどいの家

－ 目 次 －

I	法人経営に関する事項	1
	1. はじめに／理事長総括	1
	2. 財務状況・財産状況	2
	3. 広報・啓発活動に対する取り組み	3
	4. その他の法人経営に関する取り組み	4
II	法人の現況に関する事項	7
	1. 法人概要	7
	2. 役員・評議員等の状況	8
	3. 理事会開催の状況	9
	4. 評議員会開催の状況	10
	5. 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況	10
	6. 監査等の状況	11
	7. 運営事業の状況及び事業利用者の推移	11
	8. 地域における公益的な取組の状況	12
	9. 職員の状況	12
III	部門・各事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）	15
	A 総務部	15
	1. 総務課	15
	B 日中活動支援事業部	17
	2. 仙台つどいの家	17
	3. つどいの家・コペル	19
	4. つどいの家・アプリ	22
	5. 八木山つどいの家	25
	6. 若林障害者福祉センター（生活介護等）	28
	C 地域生活支援事業部	30
	7. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」	30
	8. 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」	33
	9. 地域生活サポートセンター「ピボット若林」	35
	10. グループホーム（共同生活援助事業）	38
IV	参考資料	41
	1. 利用実績（日中活動支援事業部門）	42
	2. 利用実績（地域生活支援事業部門）	46
	3. 寄附金受領状況	56
	4. 地域における公益的な取り組みに関する状況等	58
	5. 法人会議・委員会実施状況	59
V	附属明細書	63

I 令和3年度 法人経営に関する事項

1. はじめに / 理事長総括

新型コロナウイルス感染症への対応に追われる日々も2年を過ぎました。昨年度は、4月にグループホーム職員1名の感染が判明して入居者が濃厚接触者となり、長期間ホーム内のみでの生活となりました。その後、ワクチン接種の勧奨や日々の感染対策の徹底を期してきましたが、年明け1月下旬、通所施設とグループホームにおいて集団感染が発生し、施設を一時休業する事態に至りました。また、年間を通して、市内の感染拡大状況に応じて移動支援やホームヘルプサービス等の利用制限、一時休止をせざるを得ませんでした。

決算においては、コロナの影響による様々な事業分野にわたる稼働実績の減少、ご不幸やご家庭の事情による中途退所等もあり、収支が大幅に悪化する結果となりました。そもそも、支援の費用を出来高払いととらえる現行制度の下では、支援の実績の減少は収入の減少に直結します。一方、運営費用の大部分を人件費が占める事業構造の下にあっても、支援の担い手を都合よく日々毎に雇用することはできませんし、してはいけないものと考えます。特につどいの家は、利用者本人の意思を大切に、個人の特性を理解したうえで本人主体の個別支援を進めることを行動指針としています。こうした支援を進めるためには、継続的安定的な雇用環境の下で職員の使命感や専門性を高め、本人理解を深めていくことが必要であり、このことを貫きながら経営基盤を強化するという課題に、昨年度認定を得られた税額控除対象法人制度の活用や制度的に認められている収入確保策を徹底的に追及するなど工夫を重ね、挑戦し続けたいと思います。

集団感染発生時の法人挙げての対応時に感じられた職員の一体感、使命感は法人の大きな財産であり、さらに広く、深く浸透させていく取組が必要と考えます。また、感染対策を徹底する結果、地域とのつながりを深め、広げる取組は一定の制約を受けざるを得ませんが、つどいの家らしさを失うことなく活動の幅を広げることの意義、方途を全職員で探っていきたいと思います。

懸案となっているグループホームの新設については、この度のクラスター発生時の対応で得られた知見も踏まえ、より充実した生活の場として開設できるよう、今般のロシアショックなどによる建築物価の動向も注視しながら取り組んでいきます。

新型コロナウイルス感染症、ウクライナ問題や改憲の喧伝、資源高や悪い円安等日本経済の今後、資金収支をはじめとした今後の事業運営環境などなかなか先を見通しづらい日々が続きますが、こういうときだからこそ、冷静さを失うことなくオンオフの切り替えも心がけ、全職員、関係の皆様へに依拠しながら事業運営に当たっていきたいと考えています。

2. 財務状況・財産状況

(1) 財務状況の推移

(単位：千円)

勘定科目	令和3年度	令和2年度	平成31年度	前年度比
サービス活動収益(1)	837,163	894,062	850,521	△ 6.4 %
サービス活動費用(2)	904,721	876,932	851,910	3.2 %
サービス活動増減差額(3=1-2)	△ 67,588	17,130	△ 1,389	－ %
サービス活動外増減差額(4)	6,568	7,993	10,987	△ 17.8 %
経常増減差額(5=3+4)	△ 60,990	25,123	9,598	－ %
特別増減差額(6)	14,084	12,130	51,882	16.1 %
当期活動増減差額(7=5+6)	△ 46,906	37,254	61,480	－ %

(2) 資産・負債等の推移

(単位：千円)

勘定科目	令和3年度	令和2年度	平成31年度	前年度比
資産合計	1,154,272	1,217,637	1,224,697	△ 5.2 %
負債合計	202,009	196,668	211,861	2.7 %
純資産合計	952,263	1,020,968	1,012,836	△ 6.7 %

(3) 借入金の状況

(令和4年3月31日現在)

借入先	借入用途	元金残高(千円)
独立行政法人 福祉医療機構	ひかりはうす(GH)不動産取得・改修資金	3,185
独立行政法人 福祉医療機構	アプリ土地取得・建設資金	36,636
独立行政法人 福祉医療機構	仙台つどいの家災害復旧資金	22,896
七十七銀行	つどいの家・コペル設備整備資金	9,630
(借入金 合計)		72,347

※令和3年度新規借入額：なし

(前年度より11,304千円減)

(4) 補助金・寄附金等の状況

(単位：千円)

補助種別	令和3年度	令和2年度	平成31年度	前年度比
事業運営費	38,661	64,091	84,518	△ 39.7 %
人件費(職員加配)	34,122	37,954	27,501	△ 10.1 %
施設設備整備等	9,026	2,110	0	327.8 %
その他	6	6	20	0.0 %
寄附金	22,757	21,494	74,980	5.9 %

※詳細は、「IV 参考資料」に掲載

3. 広報・啓発活動に関する取り組み

(1) 法人広報誌発行

広報誌「つどい」第32号 令和3年8月31日発行（発行部数：1,450部）

（テーマ）令和2年度を振り返って/事業報告・決算報告など

同 第33号 令和4年3月31日発行（発行部数：1,450部）

（テーマ）コペル開設から20年を振り返って、これから～

(2) ホームページによる情報開示と支援者との継続的な関係性構築に向けて

従来通り、社会福祉法並びに法人定款に規定する福祉サービスの質の向上と事業経営の透明性の確保を図るため、法人の現況報告書や財務諸表等をホームページ上で開示しました。

また、法人が運営する各事業の取組みを広報することを通して、社会からの共感を得ながら様々な支援に繋がれるよう、または求職者の興味関心を得て人材確保に結び付けられるよう、ホームページ上で常に新しい情報の更新に努め、法人及び事業運営に係る様々な取り組みを積極的に発信しました。

このほかWeb以外にも、寄付報告及び募集チラシを作成し、これまで支援をいただいた人への感謝を改めて示しながら継続的な関係性の構築に努めるとともに、新たな支援者の獲得としょうがい者理解の裾野を広げる取り組みに結びました（寄付金受領状況は参考資料Ⅳに掲載）。

なお、こうした取組みの結果、令和3年12月28日付で税額控除対象法人(仙台市内認定法人数9法人/令和4年2月現在)に認定されました。

(3) 啓発活動

しょうがいのある方の人権と差別のない社会の構築を目指す法人の基本理念に従い、社会への啓発活動の一環として、後援会との共催で研修会を開催しました。新型コロナウイルス感染対策の観点から、オンラインセミナーとして実施しています。

内 容： NPO法人ワンファミリー仙台 生活支援課長 佐藤岳彦氏による講演会

テーマ： 生活困窮者支援の実際を学ぶ

日 時： 令和3年11月27日（土）

参加数： 89件（個人・団体）

成果等（参加者からいただいたご意見等/講演後のアンケートより一部抜粋）

- ・ 現在の大きな社会問題のひとつだと感じた。（60代・行政機関勤務）
- ・ プライバシーの問題などもあり、日頃聞くことができない困窮者支援について聞くことができて大変貴重な研修となりました。（40代・障害福祉施設等勤務）
- ・ 大学でも学んだ多職種連携についての大切さを再確認しました。今後の活動に活かしていきたい。（20代・学生）
- ・ 今回のように他の福祉関係団体のお話を聞くと、どこかで繋がりがあり、広く連携していくことの必要性を感じた。（30代・保護者）
- ・ いろいろなことが引き金となって困窮している人に寄り添い、前に進めるように共に道すじを考えていくことが真の自立につながることを学ばせてもらった。（60代・保護者）

ほか、多数

4. その他の法人経営に関する取り組み

(1) 福祉サービス等における苦情対応など

【苦情解決委員会実施状況】

日 時	協議内容	出席者数
第 1 回 R 3. 10. 27 (水)	令和 3 年度上半期(4～9 月)における苦情受付内容および解決に至った経過検証など	第三者委員 2 名／3 名 受付担当者名 3 名／7 名 解決責任者 9 名／9 名
第 2 回 R 4. 3. 18 (金)	令和 3 年度下半期(10～3 月)における苦情受付内容および解決に至った経過検証など	第三者委員 3 名／3 名 受付担当者 3 名／7 名 解決責任者 5 名／9 名

【苦情対応の状況】

事業所名	主たる内容	解決有無
つどいの家・コペル	・公用車の運転に対し、地域の方より苦情 ・利用者同士のトラブルに対し、保護者より苦情 ・食事介助時の衣服の汚れに対し、保護者より苦情（クリーニング代請求） ・利用者同士のトラブルに端を発し、これまでの職員の対応について保護者より苦情	解決済
仙台つどいの家	・公用車の運転に対し、地域の方より苦情	解決済
つどいの家・アプリ	・引き渡し訓練時の職員の対応について、保護者より苦情。 ・通信誌の記事に対し、地域の方より苦情。 ・公用車の運転に対し、地域の方より苦情。（同様の苦情他 4 件） ・コロナ禍の状況で、体調不良の利用者の実名を公表したことに対し、保護者より苦情。 ・送迎先（外出先）での利用者の排泄処理対応について、地域の方より苦情。	解決済
びぼっと支倉	・相談員の会話の内容に対し、利用者本人より苦情（契約解除）。	解決済
※合計 15 件 （内訳）事業所の近隣住民からの苦情 9 件 利用者・保護者 6 件 職員 0 件		

(2) 介護職員初任者研修事業の実施

財務上の課題や人材不足等に対応するため、2019 年度より事業化した介護職員初任者研修も 3 年目が終了しました。2021 年度も、新型コロナウイルスの影響を受け、年 4 回実施予定のところ 3 回しか実施できませんでしたが、これまで平日のみの開催だったスクーリングに土・日コースを加え、また、法人職員（受講後につどいの家に就職した者を含む）の受講料を免除（又は返還）とするなど、工夫を重ねながら実施し、受講者数は前年度の計 6 名から、計 13 名に増加しました。受講者の中には当法人での勤務を希望される方や、実際に雇用に結びついた方もおり、少数ですが人材の確保にもつながっております。

令和 4 年度においても新型コロナウイルスの感染拡大は依然として先行き不透明であり、本研修にも影響を及ぼしそうですが、今後も人材の確保のみならず、一般市民等多くの方々にしょうがい分野に興味を持ってもらい、理解を深めてもらえるよう努めてまいりたいと思います。

◇これまでの実施状況

年 度	開催数	受講者総数	うち外部受講者	うち当法人に 就労が繋がった数
2019 (R1)	3回 (クール)	18名	5名	0名
2020 (R2)	3回 (クール)	6名	4名	1名(*1名)
2021 (R3)	3回 (クール)	13名	7名	0名(*3名)

*本研修を修了し、当法人への就労を希望するも諸般の事情等でマッチングしなかった者の数を指す。

(3) 新型コロナウイルス感染対策に関する対応

新型コロナウイルスの感染対策については、収束の見通しがなく長期的な対応が求められたなか、法人及び職員間で感染予防と拡大防止を図るための様々な措置を講じ対応しました。

➤ 感染対策会議の実施

- ・令和3年度 3回開催 (12/3、1/24、1/26)

※これとは別に、経営会議や事業運営会議で適宜対応等を管理者間で確認

➤ 職員等への感染対策通知

- ・4/2 まん延防止等重点措置が宮城県に適用開始されることを前に、法人としての感染対策等に関する考え方を管理者、職員間で確認
- ・4/21 職員向け「感染防止対策等に関する取扱いについて」(第10報) 発出
※大型連休を前に改めて感染防止のための行動指針等を再周知
- ・5/27 職員向け「ワクチン接種に関する勤務上の取扱い」発出
- ・6/9 福祉施設従事者へのワクチン優先接種予約受付開始を前に、申込時の留意点や職員への情報提供等について管理者間で共有
- ・8/4 職員向け「感染防止対策等に関する取扱いについて」(第11報) 発出
※感染急拡大とお盆期間を控え人流増加が予想される中での注意喚起を兼ねて
- ・8/19 日中活動支援事業所利用者・保護者向け「感染疑い例発生時の日中活動支援事業所の対応について」発出
- ・12/3 職員向け「年末年始の過ごし方などについて」発出
※変異株拡大と年末年始を控え留意事項等を周知
- ・1/18 年始における感染急拡大を受けて「当面の感染対策等について」発出

➤ (事業継続に影響を受けた) 利用者、職員等の感染とそれに伴う諸対応など

No	事業所名	期 間	感染者数	外部公表 (ホームページ)	事業への影響
1	さくらはうす (仙台つどいの家)	4/15 ～4/28	職員1名	4/21 付け公表	・GH 入居者全員が生活介護利用を控える
2	コペル 若林障害者福祉センター 八木山つどいの家 若林区内グループホーム	1/21 ～2/16	利用者13名 職員14名	1/24 付け公表 ※全12報	・コペル9日間休業 ・若福6日間休業

3	仙台つどいの家 (さくらはうす)	2/1 ～2/16	利用者 1 名 職員 1 名	2/1 付け公表	・ 5 日間休業
※No 2・3 の対応に伴い、「ぴぽっと南光台」で運営する以下の事業を休業措置とした。 短期入所・日中一時支援事業：19 日間 居宅介護等事業：13 日間					

➤ 新型コロナウイルス感染症に関する補助金等の活用状況

補助事業名	内 容	交付額
仙台市サービス継続事業助成金	サービス継続支援・感染防止対策	903 千円
仙台市感染拡大防止協力事業者特別支援金	サービス継続支援・感染防止対策	1,000 千円
障害福祉サービス施設・事業所等における 感染防止対策支援事業	感染防止対策	106 千円
宮城県知的障害者福祉協会助成金	サービス継続支援	300 千円
JKA 衛生品補助金	感染防止対策	950 千円
合 計		3,259 千円

➤ その他の感染対策など

- ・ コロナ感染等に関わる就業上の取扱い（判断基準）の見直し
- ・ 一連のコロナ感染対応による振り返りと新たに見出された課題等の集約

(5) その他事務手続き

◆ 登記に関する事項 ・ 資産総額変更登記（6/29） ・ 代表者重任登記（7/5） ◆ 行政手続き ・ 介護員養成研修事業者認定/宮城県（4/16 認定） ・ 社会福祉法人現況報告書等提出/仙台市（6/30） ・ 定款変更認可申請/仙台市（R4/4/5 認可） ◆ 法人内部規程・基準等の整備 ・ 定款 /改正 ・ 就業規則 /改正 ・ 賃金規程 /改正 ・ 経理規程 /改正 ・ 育児休業及び育児短時間勤務に関する規則 /改正 ・ 介護休業及び介護短時間勤務に関する規則 /改正 ・ (各事業)運営規程 /改正 ◆ その他 ・ 改正「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律等」の施行に伴う対応 ※一般事業主行動計画の一部変更 ・ 税額控除に係る証明申請書提出	◆ 仙台市長への要望書提出 (令和3年9月9日付 法人単独提出) 1. 委託相談支援事業所の増設及びサポート体制の強化について 2. 成人期における医療的ケアを必要とする人の地域生活を支える施策の充実について 3. 重症心身障害の方の「住まいの場」となるグループホームの増設に向けて (令和3年7月14日付 仙台市知的障害者関係団体連絡協議会共同提出) 1. 継続的な事業運営のための「移動支援事業」の報酬体系の抜本的な見直しについて 2. グループホームにおける個人単位の居宅介護等利用の恒久化について 3. 仙台市委託事業におけるシステム等の ICT 活用における運用の柔軟化について
--	--

Ⅱ 法人の現況に関する事項

1 法人概要

- (1) 法人名称 社会福祉法人 つどいの家
 (2) 主たる事務所の所在地 仙台市若林区上飯田 1 丁目 17 番 58 号
 (3) 事業種別

第 2 種社会福祉事業	障害福祉サービス事業の経営 (生活介護、自立訓練(生活訓練)、居宅介護等、指定特定相談等、共同生活援助、短期入所事業) 相談支援事業の経営 障害児等療育支援事業の経営 移動支援事業の経営 障害児通所支援事業の経営
公益事業	障害者家族支援等推進事業 ※令和 2 年 9 月 30 日まで 福祉有償運送事業 介護員養成研修事業 日中一時支援事業

(4) 事業の種類及び名称など (令和 4 年 3 月 31 日現在)

事業所名称	所在地(仙台市)	管理者	実施事業	定 員	登録数
仙台つどいの家	宮城野区幸町 3	山口 収	生活介護	30 名	38 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	7 名
つどいの家・コペル	若林区上飯田 1	大累貴司	生活介護	40 名	42 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	7 名
つどいの家・アプリ	太白区山田本町	加藤裕絵	生活介護	30 名	31 名
			多機能型生活介護・児童発達支援	10 名	7 名
八木山つどいの家	太白区八木山本町 1	佐々木健	生活介護	20 名	15 名
若林障害者福祉センター	若林区遠見塚東	小原弥生	生活介護	9 名	12 名
			自立訓練(生活訓練)	6 名	0 名
ぴぼっと南光台	泉区南光台 3	佐藤秋男	居宅介護等	—	139 名
			短期入所等 (※1)	—	240 名
			福祉有償運送	—	9 名
ぴぼっと支倉	青葉区支倉町	佐藤秋男	指定特定相談	—	194 名
			指定障害児相談	—	37 名
			指定一般相談	—	0 名
			委託相談支援	—	89 名
			短期入所等	—	※1 共通
ピボット若林	若林区遠見塚 2	飯田克也	指定特定相談	—	140 名
			指定障害児相談	—	8 名
			指定一般相談	—	0 名

			委託相談支援	—	40 名
			居宅介護等	—	20 名
			短期入所等	—	※1 共通
ひこうき雲	若林区沖野 3、他	飯田克也	共同生活援助	24 名	23 名

2 役員・評議員等の状況 (令和3年度内就任者の状況/令和4年3月31日現在)

(1) 理事・監事

(理事定数：6名 監事：2名)

役職名	氏 名	兼職状況	特殊関係等	理事会出席状況	備 考
理 事 長	佐 藤 清	理事長	なし	5 回／5 回(100%)	
常務理事	佐 藤 吉 久	職員・総務部長	なし	5 回／5 回(100%)	
理 事	下郡山 和子		なし	5 回／5 回(100%)	
理 事	菅 井 裕 行	大学教授	なし	4 回／5 回(80%)	
理 事	山 口 収	職員・日中活動支援部長	なし	5 回／5 回(100%)	
理 事	飯 田 克 也	職員・地域生活支援部長	なし	5 回／5 回(100%)	
監 事	三 浦 俊 一		なし	5 回／5 回(100%)	
監 事	大 谷 津 敏	税理士	なし	4 回／5 回(80%)	

*任期：令和3年6月25日から令和5年6月の定時評議員会終結の時まで

(注) 社会福祉法第40条第4項及び第5項並びに社会福祉法施行規則第2条の7及び第2条の8に規定する欠格事由に該当する者又は親族関係にあるなどの特殊の関係にある者の有無をいう。

(2) 評議員

(評議員定数：7名)

氏 名	兼職状況	特殊関係等	評議員会出席状況	備考
高 橋 治	他法人会長	なし	0 回／1 回(0%)	令和3年8月4日退任
細 井 実	他法人理事長	なし	3 回／3 回(100%)	
久保野恵美子	大学院教授	なし	3 回／3 回(100%)	
萩野谷 和裕	県立病院副院長・医師	なし	2 回／3 回(66%)	
中山 伸 枝		なし	3 回／3 回(100%)	
井 上 博	他法人理事長	なし	2 回／3 回(66%)	
渡 邊 好 孝	県理学療法士会 会長	なし	3 回／3 回(100%)	
田 中 伸 弥	他法人理事長	なし	2 回／2 回(100%)	令和3年8月4日就任
※監事の評議員会出席状況				
三 浦 俊 一		なし	3 回／3 回(100%)	
大 谷 津 敏	税理士	なし	2 回／3 回(66%)	

*評議員任期：令和3年6月28日から令和7年6月の定時評議員会の終結の時まで

(3) 評議員選任・解任委員

(委員定数：3名)

氏 名	区分	委員会出席状況	備 考
三 浦 俊 一	監 事	1 回／2 回(50%)	

小 林 龍 之	事務職員	2 回／2 回(100%)	
後 藤 道 子	外部委員	2 回／2 回(100%)	

*任期：令和３年１月２８日から令和６年６月の定時評議員会の終結の時まで

(4) 地域生活支援諮問委員会

(令和３年度第２回評議員会（令和３年１０月８日開催）承認を以て委員会廃止)

3 理事会開催の状況

月 日	議案内容
第１回 R3.5.26（水）	第１号 令和２年度事業報告に関する件
	第２号 令和２年度決算報告及び監査報告に関する件
	第３号 理事・監事候補者の推薦に関する件
	第４号 評議員候補者の推薦に関する件
	第５号 令和３年度定時評議員会の招集等に関する件
第２回 R3.6.25（金）	第１号 理事長の選任に関する件
	第２号 常務理事の選任に関する件
第３回 （書面表決） 表決日：R3.8.3（火）	第１号 評議員候補者の推薦に関する件
第４回 R3.9.24（金）	第１号 令和３年度第一次補正予算案に関する件
	第２号 定款の一部改正案等に関する件 《概 要》地域生活支援諮問委員会の廃止（発展的解消）。
	第３号 令和３年度第２回評議員会の招集等に関する件
第５回 （書面表決） 表決日：R4.2.7（月）	第１号 就業規則及び諸規程の一部改正案に関する件 《概要》同一労働同一賃金の観点から、諸手当について支給要件の変更及び非常勤職員等に拡大支給。
	第２号 グループホーム新設計画に関する件
	第３号 介護職員処遇改善支援補助金支給に伴う職員の賃金引き上げについて 《概 要》介護職員処遇改善交付金の運用方法や自己財源の調達等について理事長専決の承認。
第６回 R4.3.17（木）	第１号 令和３年度第二次補正予算案に関する件
	第２号 苦情解決第三者委員の任期満了に伴う選任に関する件
	第３号 就業規則及び諸規程等の一部改正案に関する件
	第４号 管理職人事案に関する件
	第５号 令和４年度事業計画案に関する件
	第６号 令和４年度当初予算案に関する件
	第７号 令和３年度第４回評議員会の招集等に関する件

4 評議員会開催の状況

月 日	議案内容	採決	出席者数
第1回(定時) R3.6.25(金)	第1号 令和2年度事業報告に関する件	可決	評議員 6名 監 事 2名 (WEB参加4名)
	第2号 令和2年度決算報告及び監査報告に関する件		
	第3号 理事及び監事の選任に関する件		
第2回 R3.10.8(金)	第1号 令和3年度第一次補正予算案に関する件	可決	評議員 6名 監 事 2名 (WEB参加3名)
	第2号 定款の一部改正案等に関する件	可決	
第3回 R4.3.23(水)	第1号 令和3年度第二次補正予算案に関する件	可決	評議員 6名 監 事 1名 (WEB参加3名)
	第2号 令和4年度事業計画案に関する件	可決	
	第3号 令和4年度当初予算案に関する件	可決	
	第4号 経理規程の一部改正案に関する件	可決	

5 評議員選任・解任委員会、その他会議等開催の状況

(1) 評議員選任・解任委員会

月 日	議案内容	採決	出席者数
第1回 R3.6.28(月)	第1号 評議員の選任に関する件	可決	委 員 2名
第2回 R3.8.4(水)	第1号 評議員の選任に関する件	可決	委 員 3名

(2) 地域生活支援諮問委員会

開催なし(※新型コロナウイルス感染拡大等により中止)

※令和3年度第2回評議員会(令和3年10月8日開催)承認を以て委員会廃止

(3) その他の会議・委員会

部門	名 称	実施回数	部門	名 称	実施回数
主要会議	経営会議	12回	経営部門	事業運営会議	12回
	人事委員会	18回		防災委員会	5回
	法人衛生委員会	4回		職員研修委員会	6回
	各所衛生委員会	別記		研修体系等検討会	4回
	権利擁護・虐待防止委員会	6回		ICT利活用検討会	5回
情報交換調整	食事サービス従事者連絡会	2回	事業運営部門	日中活動支援事業部連絡会議	11回
	PT・OT連絡会	0回		地域生活支援事業部連絡会議	11回
	看護師連絡会	4回		相談支援事業検討会議	5回
	サービス管理責任者連絡会	3回		日中活動支援事業検討会議	5回
	南北グループホーム連絡会	12回		重度障害者支援加算検討会	3回
	採用チーム連絡会	6回		喀痰吸引等検討会	2回
	総務ミーティング	34回		居住支援等事業検討会議	5回

※主たる内容や成果又は次年度への課題等については別添参考資料参照

6 監査等の状況

(1) 監事監査

実施日	監査内容	監査員	指摘事項等
R3.5.18 (火)	事業年度(令和2年度)に係る業務執行状況及び財産状況	三浦監事 大谷津監事	計算書類と固定資産管理台帳、計算書類と付属明細書との相違。未収金・賞与引当金の確認。 理事会議事録の押印、中期経営計画、初任者研修、GHのコロナ対応等について確認。
R3.11.18 (水)	令和3年度上半期決算に係る会計処理等進捗確認など	大谷津監事	賞与引当金の処理や、固定資産の有無等確認。退職共済の仕訳・電気設備工事の仕訳・現金の取扱い・寄附領収の発行についてのアドバイス。普通預金で動きがない口座についての管理方法の提案。

(2) 外部機関等による監査など

項 目		監査・調査内容	監査員	(文書) 指摘事項等
行政監査等	法人一般監査 R3.11.24 (水)	社会福祉法第56条及び同法第70条等に規定する監査	3名	運営管理・経理ともになし
	集団指導 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため集団講義なし(資料閲覧・Web)	各種法令関係、指定申請及び指導監査、利用者への合理的配慮の提供、情報公表システムの更新など	—	
	労働基準監督署 査察 R4.3.25 (金)	労働基準法101条1項に規定する立入調査 (対象事業所：びぼっと支倉)	4名	・賃金計算の基礎となる就業時間と実労働時間に乖離が見られたことから、適切な労務管理を行うこと。
	※その他事業所実地監査については実施なし			

7 運営事業の状況及び事業利用者の推移

実施事業	令和3年度 利用総数	令和2年度 利用総数	平成31年度 利用総数	前年度比
生活介護	26,416 (名)	26,790 (名)	27,500 (名)	△1.4 %
特例生活介護・児童発達支援	2,978 (名)	3,341 (名)	2,760 (名)	△10.9 %
自立訓練(生活訓練)	0 (名)	0 (名)	0 (名)	— %
居宅介護	20,460.0 (時間)	21,774.5 (時間)	21,358.5 (時間)	△6.0 %
重度訪問介護	967.5 (時間)	1,047.0 (時間)	1,382.0 (時間)	△7.6 %
行動援護	0.0 (時間)	0.0 (時間)	0.0 (時間)	— %
同行援護	304.0 (時間)	421.5 (時間)	940.5 (時間)	△27.9 %
移動支援	3,434.5 (時間)	6,581.0 (時間)	11,505.0 (時間)	△47.8 %
短期入所	668 (日)	740 (日)	1,368 (日)	△9.7 %
日中一時支援	5,909 (時間)	7,955 (時間)	12,119 (時間)	△25.7 %

指定特定相談支援（計画）	430（件）	437（件）	417（件）	△1.6%
〃（モニタリング）	1,133（件）	1,298（件）	1,172（件）	△12.7%
委託相談支援事業	3,071（件）	4,512（件）	4,342（件）	△31.9%
障害児等療育支援事業（訪問）	97（件）	75（件）	74（件）	29.3%
〃（外来）	8（件）	15（件）	17（件）	△46.7%
福祉有償運送事業	18（件）	82（件）	81（件）	△78.0%
共同生活援助	8,411（名）	8,306（名）	8,238（名）	1.3%

（注）障害者家族支援等推進事業は令和2年9月30日をもって廃止。同年10月より短期入所・日中一時支援に移行

8 地域における公益的な取組の状況

社会福祉法第24条第2項の規定に基づき、当法人が培ってきた専門性やノウハウ等を活かし、地域住民や関係団体、機関等との連携のもと、地域における福祉ニーズの把握に努め、社会課題の解決に向けた公益的な取組みを実践しました。詳細は、「Ⅳ 参考資料」に掲載しています。

9 職員の状況

（1）職員数の現況と推移（令和4年3月31日現在）

職員数	前年度比	平均年齢	平均勤続年数
235名	増減なし	45.7歳	8年3ヶ月
（内 訳） 常勤120名、準常勤14名 非常勤70名、嘱託24名 登録ヘルパー7名	（内 訳） 常勤6名増、準常勤2名増 非常勤等8名減	（内 訳） 常勤 40.6歳 非常勤等 52.3歳	（内 訳） 常勤 9年6ヶ月 非常勤等 6年8ヶ月

（2）入退職者の状況

【入職者状況】

雇用形態	新規学卒者	既卒者	現役学生等	合 計
常 勤 職 員	3名(2名)	10名(5名)	0名(0名)	13名(7名)
準常勤職員	0名(0名)	1名(0名)	0名(0名)	1名(0名)
非常勤職員	0名(0名)	6名(7名)	2名(1名)	8名(8名)
登録ヘルパー	0名(0名)	0名(0名)	0名(0名)	0名(0名)
嘱 託 職 員	0名(0名)	3名(2名)	0名(0名)	3名(2名)
合 計	3名(2名)	20名(14名)	2名(1名)	25名(17名)

【退職者状況】

勤続年数 雇用形態	1年未満	～3年未満	～5年未満	～10年未満	10年以上	合計	離職率
常 勤	3名 (1名)	3名 (0名)	1名 (3名)	2名 (2名)	4名 (2名)	13名 (8名)	10.3% (6.3%)
非常勤等	8名 (3名)	7名 (16名)	1名 (1名)	6名 (1名)	2名 (1名)	24名 (22名)	25.5% (20.2%)
合 計	11名 (4名)	10名 (16名)	2名 (4名)	8名 (3名)	6名 (3名)	37名 (30名)	15.7% (12.8%)

※（ ）内は前年度数を表記

(3) 新職員確保に向けた取り組み

令和3年度は母集団形成と事業所見学からの試験応募者への遷移率を高めるための取組をすすめました。しょうがい分野で働くイメージを持ってもらえるように、動画の作成とリクルートガイドブックの刷新を行っています。また、早期内定者の内定辞退対策として法人として初めての試みとして内定式の実施をしております。

- 就職説明会（法人独自）の開催や民間団体等主催就職説明会への参加
 - ・参加者 63名（うち法人独自開催 20名）
- インターンシップ生の受け入れ及び社会福祉士実習の受け入れと大学キャリアセンター等との連携など
 - ・インターンシップ 17名（うちWEB インターンシップ 6名）
 - ・社会福祉士資格取得のための社会福祉援助技術実習の受入 3名
- ※ その他、しょうがい理解を深めるための対面やオンラインを利用したゲストスピーカーを実施しています。
- 「若者雇用促進法」に基づく『ユースエール認定企業』としての認定
 - ・2018年度に認定を受けた『ユースエール認定企業』の更新
- 内定辞退対策としての内定式の実施
 - ・10月5日開催 内定者6名参加

(4) 職員研修システムの遂行

<職 制>

月	日	項 目	内 容	参加者数
12	1	全体研修 オンライン	「つどいの家実践発表会」 ・各事業所の実践発表 テーマ「支援」 ・支援の取り組みを映像等にまとめ発表 ・各事業所の取り組みを共有し、連帯感と職員相互の実践を称えあう	126 名
中止		指導職研修 オンライン	「異業種を知る」～企業に学ぶマネジメント研修～ ・リーダーの役割を学び、自組織にどう活かすかを考える	—
7	1	非常勤等 職員研修 オンライン	「障がい者の権利擁護」 講師：宮城県障害者権利擁護センター・宮城県障害者差別相談センター 所長・鈴木みゆき氏 「すてーじ上映」 ・福祉職に従事する自覚と目標を持って、仕事や組織活動に取り組む姿勢を養う ・福祉サービスの基礎知識・基本的動向を理解する ・職場構成員としての連帯感を深める、職員間で交流できる場を設ける	66 名
5	27	選択研修Ⅰ (2つ選択)	① 介護技術Ⅰ（排せつ・食事） 講師：佐々木健	6 名
5	28		② 介護技術Ⅱ（車いす・シーティング） 講師：加藤裕絵	3 名
8	26		③ 重症心身障がい児・者の支援 講師：大累貴司	3 名
11	4		④ 発達障がい・自閉症の支援 講師：高杉和豊	8 名
10	27		⑤ 自己決定・意思決定について 講師：山口収	7 名
			⑥ 個別支援計画とは 講師：堀内孝雄	12 名

7	28	選択研修Ⅱ (2つ選択)	① 相談支援事業 ケアマネジメント演習	講師：福地真衣子	9名
9	2		② 事務について（財務・人事・労働法等）	講師：小林龍之・金野祐士	10名
10	26		⑦ 地域生活支援の役割とは	講師：三浦郁美・高橋和也	6名
11	25		⑧ 行政・アーチルとの連携	講師：ウェルポート職員	6名
11	11		⑤ 栄養指導 食育の大切さについて	講師：健康増進センター職員	8名
			⑥ 感染症・医療的ケアについて	講師：角田利子	4名

<権利擁護・虐待防止委員会主催 内部研修等>

- 内 部 研 修：「虐待防止とその対応に関するガイドライン」に基づき、権利擁護及び虐待防止に関する職員の意識向上を図ることを目的として、委員会主催の内部研修を実施。セルフチェックシートを用いて自己の支援や感情を振り返り、また他者と成功体験や福祉の仕事のやりがいを共有し、肯定感を高めあう機会とした。

(5) 相談支援従事者、サービス管理責任者等研修への職員派遣

- ・相談支援従事者初任者研修 4名
- ・相談支援従事者現任者研修 3名
- ・サービス管理責任者研修 5名

(6) 資格取得奨励助成事業(法人独自)

- ・実績なし

(7) 職員労働環境改善等に向けた取り組み

- ・仕事に関する職員満足度調査の実施（11月/197名より回答）
- ・女性活躍推進法施行に伴う一般事業主行動計画の更新（令和4年4月1日～）
- ・ハラスメント防止に関する方針と相談窓口担当者の選任・公表、アンケート実施

Ⅲ 部門・各事業運営に関する事項（事業所別 事業報告）

A 総務部 1. 総務課

【 はじめに 】

新型コロナウイルス感染症が長期化するなか、鈍化した人との交流や繋がりを深める活動をいかに取り戻すことができるのか、我々の知恵と工夫が問われる1年として令和3年度を迎えたはずでしたが、現実的には厳しく、職員相互のコミュニケーション機会が希薄化した影響も大きく、様々な内的課題を抱え対処した一年であったかもしれません。さらには働き方改革の名のもとに見直された施策に対応してきたことは、法人経営にとってプラスに働いたのか疑問も多く、むしろその影響の重さに苛まれ、組織の持続可能性を高めること、法人理念を職員に浸透させることの難しさを実感しています。

そのなかで、総務部として何ができ得るのかを所属職員間で確認し、共通認識を深めながら経営ビジョンに沿って取り組んで参りました（以下参照）。法人の基本理念の実現に向けて、しょうがいのある人への理解を深め、私たちの活動に共感を寄せてもらうには何が必要かを常に問い、訴求力を高め、様々な機会を通して情報を発信していくことにこの一年注力して参りました。まだまだ検証すべき課題も多くありますが、一つひとつ丁寧に向き合い、多様な主体の参画を促しながら課題解決に努めてまいります。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

1 法人経営並びに地域生活支援事業拡充等に伴う資源創出等の検証に関すること

ビジョン1

- 中期経営計画に関する中間評価を実施し、重点項目に対する進捗確認やこれまでの取り組みに関する成果、今後の諸課題について確認し、共通認識を図りました。
- コロナ禍にあっても介護員養成研修事業を継続して実施し、しょうがい福祉に興味関心を寄せる人材の育成に努めました。また、マンパワーの新規獲得や職員の受講奨励による資質向上を図る観点から、受講料の見直しも行いました（免除・返金規定の創設等）。
- 成年後見制度の推進を図るため、利用者のご家族との意見交換を継続して行い、職員や利用者のご家族に対する研修の持ち方などについて検討を重ねました。
- 学生自らが、しょうがいのある人への理解促進と差別のない社会の構築に向けた啓発活動に参画できる機会を創出するため、大学教員への働きかけを行い、実際の取組みに結びました。
- 仙台市障害者福祉センターの今後の在り方検討に伴う行政との意見交換を行いました。

2 地域社会や企業等から理解や共感を得るための取り組みに関すること

ビジョン2

- 支援者管理ソフトを有効に活用し、戦略的に寄付や様々な支援が得られるよう、企業プロボノ活動などと連携を図りながら、仕組みづくりに取り組みました。
- 前年度に続き、寄付金がどのように活用されたかをわかりやすく説明するため、いただいた方々への御礼を兼ねて報告書を作成・発行し、ホームページへの掲載など広報に努めました。
- 後援会とともに、法人並びに後援会活動に興味関心を寄せ、広く社会から支援を得る仕組みづくりの検討に取組み、共催セミナーの企画・開催運営などに寄与しました。
- ほとんどの寄付者にとって節税が高い税額控除対象法人として認定を得ることができました。さらにしょうがい者理解と法人の事業活動への共感層を広めるため、税額控除等に関するパンフレットを作成し、広報にも努めました。

- このほか、共生社会の実現と人権擁護の普及啓発等を企業等と連携して行うことの必要性について、法人と縁があり、かつ社会貢献活動に取り組む企業等を広報誌に紹介し、世論を喚起することに努めました。

3 法人経営の透明性を高め、社会からの信頼を得る取り組みを行うこと

ビジョン3

- 広報誌やホームページを活用し、適正な情報開示と情報発信を行いました。
- 支援者への説明責任を果たすため、寄付報告書の作成と情報発信を行いました（再掲）。
- つどいの家連合保護者会との意見交換の場をいただき、法人の財務状況等の説明に取り組みました。

4 経営基盤強化のための財源確保、組織の機能性・効率性を高めるための取り組み等

ビジョン4

- 基幹財源にあたる障害福祉サービス等の報酬改定を巡って、運営事業における各種加算の取得状況の共有や創設・拡充加算の取得検証を行うなどの財源確保に努めました。
- 職員のやりがいや向上心を高めるため、研修体系の在り方を検討し、処遇改善等にも取り組みました。また、法人が運営する各事業所の取り組みや抱えている諸課題などを職員間で共有し、相互理解と一体感を醸成しながら組織力を高められるよう、Webを活用して実践報告会や各種研修等を実施しました。
- ICTの利活用検討や行政機関への届出など電子申請システムの導入などにも努め、組織の機能性・効率性を高める取り組みも行いました。
- 他方で、計画的な財務分析と諸課題の把握、解決に向けた具体的な検証などの取り組みに課題を残しました。コロナ感染対応の長期化や社会情勢の変化により、様々な物価高騰などの影響も顕在化しています。次年度（令和4年度）においては、こうした情勢変化等に注視しながら、経営基盤の強化に重点的に取り組んでいく必要があります。

5 事務職員個々のスキル向上への取り組み

ビジョン5

- 職員個人が研修などで習得した知識やスキルなどをチーム全体に波及させることが、組織を活性化させることを事務職員間で確認し、共通認識の形成に努めました。
- 所謂、事務系の研修については、職員への情報提供を含め参加を促しながら知識の習得と全体的な底上げに繋げてきましたが、訴求力を高めること、又は情報発信をデザインすることにまだまだ課題を残していますので、引き続き研修等に努めながら個々のスキル向上を図って参ります。

総務部が担った諸会議の開催事務や広報活動等をはじめ、法人経営に関する様々な取り組みについては、本書冒頭部分（Ⅰ～Ⅱ）を参照されたい。

B 日中活動支援事業部

2 仙台つどいの家 事業報告

【 はじめに 】

長引くコロナ禍により仙台市内においても断続的に感染拡大がみられたため、一昨年度に引き続き活動や人とのつながりが大きく制限されました。これまで行ってきた各種イベントや外出活動は軒並み中止とせざるを得ず、利用者・職員とも大きなストレスを抱えた一年でした。とんがらし通信による仙台つどいの家の取り組み紹介や募金箱の回収・設置などにより、細々と地域とのかかわりを持ってきましたが、コロナ後に入職した職員が一定程度いる中で、『一つひとつの活動やイベントの意味』『目指してきた支援』などを共有する難しさも痛感しました。

そんな中でも、例年通り法人全体研修会や実践発表会『すてーじ』をwebにより開催することができ、法人職員の一体感の醸成・利用者理解の深化などにつなげられたことは嬉しいことでした。また、事業所間・法人間での会議や交流をwebを用いて行うのが一般化したことなど、コロナ禍における工夫も引き続き進んできています。この取り組みをさらに進めることで、今後も続くであろうコロナ禍における活動の幅を広げることにもつながっていくと考えます。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 仙台つどいの家における権利擁護委員会を開催し、権利擁護・虐待防止意識の向上に向けて話し合いを始めることができました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 通信の発行・回覧により、地域社会・近隣住民のしょうがいのある方への理解促進に継続的に取り組むことができました。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 『かけこみ110番の家』を今年度も柊江小学校PTAの要請により継続しました。
- 通信・後援会募金箱活動などにより、地域の応援団確保は継続して取り組みました。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 年度途中から長期欠席者・死亡退所者が出たこと、コロナ罹患（利用者・職員各1名）により5日間の臨時休館を余儀なくされたことにより減収となりました。
- 一方で支援学校との連携により、新年度新規利用者1名を迎えることができました。
- 細々とではあるが、物販など仙台つどいの家独自の収益活動を継続して実施できました。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 感染防止の観点から積極的な研修派遣ができず、職員の学ぶ機会を十分確保できませんでした。
- ケース会議を通して、利用者一人ひとりを深く知る機会を持つことができました。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月1回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
ケース会議	月1・2回	支援計画やケース資料等の確認・検討ほか
チーフ会議	月1回	事業所運営に関する各種報告・確認・検討ほか
その他各種会議・打合せ	必要時	各行事企画運営、通信企画編集ほか

< 内外部研修 >

(内部研修) ・過去の実習・研修報告 ・権利擁護・虐待防止委員会主催内部研修 ほか	(外部研修) ・コロナ関連 web 研修 ・3 事業所（朋・青葉園・愛光園） 合同 web 研修会 ほか
--	--

< 行事等 > *感染拡大防止のため年度当初の時点で、コロナ対策会議によりほぼ中止の判断。

名称	開催日	参加者数	目的など
還暦を祝う会	9/16	90 名	還暦のお祝い
すてーじ	12/14	100 名+web30 名	地域交流・地域貢献・啓発ほか

< 見学・訪問者一覧 >

	一般来訪者	他施設等利用者及び保護者	他施設等職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内他事業所職員	合計
4 月	15	1	0	2	19	0	0	0	11	48	32	128
5 月	40	4	0	5	8	0	0	0	12	48	27	144
6 月	39	5	0	6	7	3	2	6	33	42	34	177
7 月	17	0	0	10	4	4	2	2	7	41	26	113
8 月	20	0	0	2	11	1	12	0	18	52	20	136
9 月	41	0	0	4	4	0	0	0	10	45	32	136
10 月	21	0	0	35	4	0	1	0	14	46	42	163
11 月	78	11	0	13	11	0	1	0	16	45	45	220
12 月	62	2	0	22	11	0	5	2	8	43	26	181
1 月	17	4	0	3	8	2	2	2	9	50	27	124
2 月	12	0	0	0	3	0	7	0	3	39	13	77
3 月	7	0	0	1	6	0	7	0	4	49	18	92
合計	369	27	0	103	96	10	39	12	145	548	342	1691

< 利用状況等 > 「Ⅳ 参考資料」に掲載

3 つどいの家・コペル 事業報告

【はじめに】

開設から 20 年、毎年建物の修繕を少しづつ行っていますが、今年度も経年劣化による排水管の漏水がありました。排水管等の経年劣化による備品関係の交換も必要となるため、中期計画の中で修繕計画を行ないながら事業継続に取り組みたいと思います。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響は続き、館内でクラスターが発生し、1 月 25 日から 2 月 4 日の 9 日間休館となりました。感染のスピードが速く、次から次へと、感染者の報告が続き、利用者・職員の感染が 17 名まで広がりました。クラスター発生から約 2 週間後の 2 月 7 日（月）通所再開となりました。当日は、18 名といつもの半分の通所者でしたが、利用者の元気な笑顔と保護者の励ましの言葉をいただき、日々の当たり前の生活がいかに大切で幸せだったかということを改めて実感いたしました。今回の教訓を今後の支援に活かせるように、取り組んでいきたいと思っています。

最後になりますが、利用者支援については、しょうがい理解を深めるために、個々の能力ではなく、幅広い視野で支援できるように、ケース事例検討を通じて学びの場を設けました。まだまだ、利用者の意思を汲み取れない私たちのスキル不足は否めませんが、今後、感染が終息した際には、先進地域への視察研修や他事業の見学など各職員へ研修の場を広げて、スキルアップにつなげていきたいです。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン 1

- グループ単位、フロア単位での個別支援会議を実施し、一人の支援者が考えて実行する支援からチームで考え実行する支援への更なる転換を図りました。
- 権利擁護・虐待防止委員会主催の内部研修を実施し、各職員がグループ単位で考える機会を設けました。研修を通じて、職員の支援に対する意識向上につながるきっかけとなることを願います。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン 2

- 「東北福祉大学内講義でのゲストスピーカー実施」「沖野市民センター祭り」については、感染対策を講じながら実施いたしました。ただ、七十七銀行沖野支店におけるアート展の開催及び沖野東小学校と交流は今年度も引き続きも見送りました。
- 南側広場の今後について、町内会・保育園・コペルと意見交換の場を持ちながら話し合いを行ないました。地域情報や課題も含めて話し合うことができたことが大きな成果です。
- 保育園の保護者懇談会の場として、ポランの広場の借用願いがありました。今後は、地域の貸館として試みたいと思います。
- 公益的な取り組みの一環として、事業所敷地内にフードボックスを設置しました。提供いただいた食品をフードバンク仙台へ届ける活動を始め、食品の量も増え、利用者とともに活動の一環として取り組みました。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン 3

- 小規模法人のネットワーク化による協働推進事業に参画し、若林区内の社会福祉法人と課題を共有すると共に、具体的な取り組みとして Web にて研修会を実施しました。特に若林区の中間的就労について協議しました。
- 南側広場の植栽について、地域の住民より相談がありました。植栽を剪定し、道路の見通しが良くなるように環境整備いたしました。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 仙台市重度重複障害者等受入通所施設等整備補助金（重度加算）対象者4名増となりました。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 実践報告会を実施しました。ケース事例検討を行ない、個々でまとめるスタイルではなく、グループで発表の場を設けることとしました。
- 強度行動障害支援者養成研修4名参加し、支援の強化にあたりました。
- 権利擁護・虐待差別委員会主催の内部研修や腰痛対策・防犯指導の研修を外部委託しております。

○ その他の活動

- 保護者会として、地域の農家と連携し、野菜販売や玄米販売に取り組みました。
- コペルの駐車場が狭くなってしまったことから、北側にある倉庫を移転し、駐車場を拡張しました。
- 衛生委員会を毎月開催し、産業医のアドバイスを参考に、環境改善に取り組みました。
- 衛生委員会にて、環境の改善、腰痛対策の実施、暑さ指数の共有、感染症予防など労働安全衛生に関する具体的な取り組みを行ないました。
- 自閉症に特化したグループを編成し、一人ひとりの利用者が「今」「ここで」「何に取り組むのか」を理解して一日を過ごせるように構造化への取り組みを始めました。今後、職員の独断的な支援にならないよう、全体的に取り組んでいきたいと思ひます。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
職員会議	月1回	事業所運営の方向性、日程確認、情報共有、意見交換など
ケース会議 (全体・フロア・グループ)	月1～2回	個別支援計画の具体案検討・見直し・検討、利用者や家族の状況共有、研修会の実施など
チーフ会議	月1回+臨時	事業所運営の意思決定、事業報告、課題検討など
グループ会議	月1回	各会議・事業報告、施設の共通課題検討、意見交換など
月案会議	月1回	活動・体制調整、車両、共有備品等使用調整など
給食会議	年4回	食事提供にかかわる課題検討・意見交換など
安全委員会	月1回	支援員による医療的ケアの実施状況確認、評価確認など

< 内外部研修 >

内部研修	外部研修
・コンサル研修（年4回） - 実践研修会（事例検討1事例） ・腰痛予防研修会 ・歯科指導研修会 ・防犯協会による防犯講座 ・法人新任研修 ・法人職員研修（選択研修）	・食品衛生責任者講習会 ・ストレスチェック養成研修 ・強度行動支援者養成研修（基礎・実践） ・安全運転管理者講習会 ・知的障害者福祉協会全国施設長等研修会 ・感染対策防止オンライン研修 ・3施設合同研修会 ・介護労働者雇用責任者講習会 ・日本知的障害者福祉協会 権利擁護委員会
	など

< 行事等 >

沖野市民センター祭り 絵画出展のみ

*令和3年度の行事（町内会夏祭り、バザー等）については、新型コロナウイルス感染症対策のために中止としている。

*夏祭り中止に伴い、「星空を観に行く～in 泉ヶ岳」を実施 参加者 20 名程度

*七十七銀行沖野支店におけるアート展を1月下旬に予定していたが、クラスター発生のため中止しました。

< 見学・来訪者一覧 >

(R3. 4. 1～R4. 3. 31)

	一般来訪	他施設等利用者及び保護者	他施設等職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内他事業所職員	合計
4月	28	2	2	2	1	0	0	0	3	25	73	136
5月	13	36	5	0	1	3	0	0	11	28	62	159
6月	11	3	22	2	1	12	0	31	10	35	76	203
7月	8	8	6	4	4	0	0	4	5	26	84	149
8月	5	1	0	11	1	1	0	0	7	22	70	118
9月	11	1	3	2	3	1	1	0	17	23	65	127
10月	12	8	1	3	0	0	0	9	7	21	59	120
11月	12	10	5	7	9	7	1	5	7	21	54	138
12月	6	8	2	0	1	5	0	0	14	12	90	138
1月	2	3	0	2	0	0	0	0	2	13	51	73
2月	7	7	0	1	0	0	0	0	0	20	42	77
3月	25	25	10	1	0	0	1	5	2	21		90
合計	140	112	56	35	21	29	3	54	85	267	726	1528

4 つどいの家・アプリ 事業報告

【はじめに】

つどいの家・アプリは、2011年の開所から10年目を迎えました。利用者や保護者と共に、看板のリニューアル、記念誌と歌「みんなのアプリ」を作りました。新型コロナウイルス感染対策により行事は行えませんでした。作成の過程において全員が関わることができ、思い出に残るものとなりました。

昨年度に引き続き、感染対策のために通所を自粛する利用者があり、通所されている利用者も不安を抱えていたため、事業所から利用者・職員の健康状態に関する情報提供には配慮を要しました。保護者会とも話し合いを重ね、次第に早く対応することができるようになってきました。新規感染者が減少した秋頃には個別支援計画の外出活動が行えるようになり、利用者の満足そうな表情を見ることで、職員のモチベーションも上がったように思います。

人材育成では、自閉症の障害がある利用者の支援についてケース担当だけでなく、事業所全体で支援することを目指し基本的な知識を習得するための研修を行いました。また、保護者向けにも研修を企画したところ、日頃から子どもとの関わりで悩んでいたことを講師に相談できる機会となりました。

地域との関わりは少なかったものの、毎年行っていた人来田中学校1年生への福祉講座、宮城教育大学でのゲストスピーカー(オンライン形式)は行うことができました。令和2年度は中止になった東北福祉大学からの社会福祉士実習生ですが、令和3年度は7月と9月にそれぞれ1名ずつ14日間の実習を行っております。その他に、地域における公益的な取り組みとして、山田地域を対象に公用車を含む施設備品等の貸出事業を開始しました。まだ利用申込はありませんが、地域のニーズに応えられるよう努めてまいります。

労働環境の改善として、慢性的な人材不足を改善するために、送迎の運転士として派遣社員を活用しました。しかし、職員が事務時間や休憩時間を確保するには至らず、課題を残すこととなりました。

【経営ビジョンに基づいた今年度の取り組みと評価】

○ 権利擁護推進の向けた取り組み

経営ビジョン1

- 本人主体・意思決定支援を重要視して取り組む（職員の支援力向上）
- 内部研修の開催、掲示物の活用

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 地域における公益的取り組み（中学校出前講座・貸出事業など）
- 宮城教育大学ゲストスピーカー（web講習会）

○ 地域社会等からの信頼構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 地域行事への参画（公園の草取りなど）
- アプリ10周年 企画（冊子の作成）

○ 経営基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 利用者の出席率維持と通所日数の確保

内 容	2021 年度目標	2021 年度 結果	目標数値の増減
アプリ利用者出席率	85%	86.4%	+1.4%
ミント利用者出席率	79%	76.9%	-2.1%
通所日数	249 日	250 日	+1 日

*出席率減：年度途中利用者の退所1名／新型コロナウイルス感染症拡大による通所減

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン 5

- 自閉症研修の開催（コンサルテーション）
- 感染症対策（感染対策講習会(嘔吐物処理・防護服の着用)、物品の整理、環境整備等）

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

分 類	重点課題	具体的な取り組み	評 価
労働環境	衛生委員会の設置	・ 整理整頓 (作業効率の向上・労働災害の防止) ・ 労働と疲労 (健康管理チェック・労働時間の改善)	・ 物品の整理 ・ 不用品の廃棄 ・ 腰痛体操、ラジオ体操の呼びかけ ・ 派遣社員の活用

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	毎月	各項目に分かれて、協議確認
グループ会議	隔月	ケースワークや諸課題の整理
チーフ会議	毎月	事業所内の検討課題について協議
ケース会議	毎月	利用者のケースワーク、研修会の開催等
全体懇談会	年 8 回	事業所の課題、保護者会との取り組みなど ＊新型コロナウイルス感染症対策のため、4 月 7 月 11 月 3 月に 2 回ずつ同じ内容行った。

< 内外部研修 >

内部研修 ・ 防災備蓄品確認 ・ 消防部分訓練 ・ 嘔吐物処理訓練、防護服着用訓練 ・ 安全運転研修 ・ 職員研修報告会	・ 安全衛生推進者講習 ・ 派遣元責任者・派遣先責任者講習 ・ 安全運転管理者講習 ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止研修 WEB ・ アスム療育センター自閉症研修、訪問 ・ 東北福祉大学セミナー虐待防止 WEB ・ 支援スタッフ部会東北フォーラム WEB ・ 三施設合同研修会 WEB ・ 強度行動障害研修(基礎、実践) ・ 知的障害者福祉協会 福祉講座「知的障害と認知症」WEB ・ 全国知的障害福祉関係職員研究大会 WEB ・ ピュアハーツアート展 ・ アーチル発達障害成人講座 ・ 全国知的障害関係施設長等会議 WEB ・ 全国知的障害福祉関係職員研究大会 WEB
外部研修 ・ 社会福祉施設長資格認定講座 ・ 手をつなぐ育成会報酬改定研修 WEB ・ 東北地区知的障害者福祉協研修 WEB ・ 相談支援専門員初任者研修 ・ てんかん基礎講座 WEB ・ 宮城県サービス管理者、児童発達支援管理責任者研修 WEB ・ 甲種防火管理者講習	

< 行事等 >

名称	開催日(頻度)	参加者数	目的など
車両贈呈式	11 月 11 日 (木)	10 名程度	郵便年賀寄付金配分事業
新成人を祝う会	11 月 12 日 (金)	30 名程度	新成人のお祝い
宮城教育大ゲストスピーカーWEB	11 月 30 日 (火)	111 名	障がい理解を進める活動。
人来田中学校 福祉講座	12 月 16 日 (木)	80 名程度	福祉について理解を深める活動。
つどいの家・アプリ 10 周年企画	7 月～3 月 (随時)		看板リニューアル、記念誌作成・配布

< 渉外・他 >

4/27	ないとうクリニック(嘱託医あいさつ)	10/12	わらしべ舎羽黒台工房 (あいさつ)
5/14	フードバンク説明会(富沢イオン)	12/6	町内会長 (あいさつ・防災活動等)
6/2	山田市民センター (あいさつ)	12/16	なごやかネット
6/24	ありのまま舎 (あいさつ・担当者会議)	12/20	宮城教育大学 (あいさつ)
7/10	ワクチン接種 (保護者会)	(随時)	支援スタッフ部会

< 見学者・来訪者一覧 >

(令和 3.4.1～令和 4.3.31)

	一般来訪者	他事業所等利用者及び家族	他事業所職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打ち合わせ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内事業所職員	合計
4月	1	0	0	4	0	0	0	0	2	27	24	58
5月	2	0	3	4	0	0	0	0	4	14	18	45
6月	2	0	6	1	0	1	2	18	6	8	49	93
7月	15	0	10	4	0	0	0	3	5	11	28	76
8月	9	0	0	1	0	0	5	13	4	6	20	58
9月	0	0	0	0	0	0	0	19	5	10	24	58
10月	1	0	1	0	0	0	0	5	13	8	27	55
11月	3	0	0	0	0	0	2	19	20	8	15	67
12月	2	0	0	0	0	0	3	3	13	11	19	51
1月	1	0	0	0	0	0	2	1	6	9	15	34
2月	0	0	0	0	0	0	2	1	3	11	18	35
3月	0	0	0	0	2	0	6	1	4	14	18	45
合計	36	0	20	14	2	1	22	83	85	137	275	675

5 八木山つどいの家 事業報告

○ はじめに

生活介護へ移行し5年が経過しました。新規利用者1名を迎えて15名でスタートしました。平成元年の八木山つどいの家開所以来、進めてきた地域交流やイベント等も新型コロナウイルスの影響のため2年間中止となりました。活動縮小も2年目となり、「できない」ばかりではなく、工夫が求められた年でもありました。大きな商業施設への外出や食事を伴った外出が叶わない中で、知恵を絞り、太白区で企画していた「太白区二十三景めぐり」や「太白区パン巡り」を活動に取り入れ、達成感を得られる活動を展開しました。利用者支援については、困難ケースもありましたが、意思決定支援に基づき、本人の自発的な行動を尊重したことや関係機関との連携ができたことで改善することができました。改めて本人支援の大切を知った年でもありました。学校との連携としては、東北工業大学に加え、尚絅学院大学からも新たにゲストスピーカーの声をかけて頂き、しょうがいのある方々を知ってもらう機会を設けることができました。八木山市民センターからは地域のシニア世代の学びの場である「シニア大学」講師の依頼を頂きました。八木山地域で33年間活動していますので、事業所の認知も広がっていると思っておりましたが「どんな場所か知らなかった」というご意見もあり、改めて地域の中で活動していく必要性に気付くことができました。

喫茶やまかぜのベンチもオープンして5年が経過しました。昨年度は、コロナの影響も大きくありましたが、それだけではなく職員異動や育児休暇に伴い喫茶運営が困難となり、長期で店休することになりました。規模の小さい事業所で、生活介護事業と喫茶事業を両立する困難さを感じましたが、八木山つどいの家一丸となり再開することができました。メニュー縮小や季節限定メニューの中止等の判断をしながらも試作品企画やテイクアウトに向けて準備を進めました。課題はありますが、地域と利用者を繋ぐ架け橋となる喫茶店として活動していきたいと思います。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 東北工業大学や尚絅学院大学ゲストスピーカーを通してしょうがい理解の取り組みを行う事ができました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 地域交流行事等は中止となりましたが、八木山防災連絡会への参画、八木山本町第一町内会班長として、班長会議や地域清掃活動へ参加し、役割を担うことができました。
- 八木山市民センター主催「シニア大学」講師として参画（年2回）しました。
- 「八木山こども地域食堂」を3回開催しました。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 町内会班長、防災連絡会、学校等と連携を行いました。
- コロナ感染対策を徹底しつつ、喫茶営業を行いました。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- 新規利用者獲得に向け、学生等の実習を積極的に受けました。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 内部研修「権利擁護」開催しました。（法人内職員講師）

【 その他重点事項に対する具体的な取り組みと評価 】

内 容	具体的取り組み	実績と結果
個別支援計画の促進	意思確認や意思決定支援を丁寧に行なう。本人の思いや希望を受け止めるため、ケース会議等の充実を図る。	コロナ禍の為、計画していた個別支援が達成できないところもありましたが、次年度に引継ぎ継続します。
家族との連携	将来の生活を話し合う機会(情報提供等)。施設懇談会や行事へ家族(特に父親)参加を促す。 面談の実施(年2回)	コロナ感染者増加に伴い、施設懇談会を中止した月もありました。

(3) 健康維持	看護師、嘱託医、主治医との連携 通院同行、GHとの情報交換 食事提供（アプリ・ふたばの会）の連絡調整と、食事提供の在り方の検討。	嘱託医と連携を取り、コロナワクチン接種やインフルエンザワクチンワクチンの確保など協力して行う事ができました。
(4) 作業品開発・アート作品商品化、アート化推進	喫茶室で写真展を開催。 IPAD 等を使ったデジタルアートへの取り組みを行う。	・写真クラブを通して撮影した写真を喫茶に掲示しました。
(5) はたらくの支援	利用者が取り組む事のできる作業を通して「はたらく」事への意欲を高める。 喫茶店の接客を通して、はたらくことを考える。	・毎週、喫茶クラブを入れ喫茶作業に取り組む機会を増やしました。
(6) ボランティアの協力	大学の学生や地域住民の活動ボランティアを募集。 喫茶ランチタイムのボランティアを引き続き募集する。	・コロナ禍の為、ボランティアの募集を積極的に行うことができませんでした。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
チーフ会議	年 5 回	予定確認、グループ特記、行事進捗、ケース会議議題検討、内部研修テーマ検討、他
月案調整会議	月 1 回	活動場所調整、支援体制調整、配車、食数確認、他
八木山衛生委員会	年 4 回	環境整備、感染症対策、職員勤務環境、他
職員会議	月 1 回	予定確認、会議・委員会報告、行事確認、検証、内部研修、他 ※今年度より全職員参加に形式を変更
ケース会議	月 1 ～ 2 回	個別支援計画、ケース特記、ケース記録まとめ、事例検討、他
非常勤等連絡会 (喫茶担当)	月 1 回	情報共有、喫茶・厨房・事務の連携、イベント検討、季節メニュー検討、他

< 内外研修 >

・強度行動障害支援者研修（基礎・実践） ・アーチル主催「発達障害者が地域で安心してくらしていくために」参加 ・社会福祉会計簿記研修 ・東北フォーラム in 秋田 WEB 参加 ・全国知的障害者関係施設長研修（WEB） ・法人主催「介護職員初任者研修」第3クール	・内部研修「権利擁護」講師：法人内職員 ・「障害のある人を支援する防災研修会」WEB 参加 ・「施設長研修」宮城県知的障害者福祉協会主催 WEB 参加 ・仙台市「集団指導」WEB 参加
---	---

< 行事等 >

名称	開催日 (頻度)	参加者数	目的など
八木山つどいの家バザー	年 0 回	0 名	地域交流、保護者会との連携、収益 コロナ禍の為、中止
ミニバザー「コツコツ市」	年 0 回	0 名	コロナ禍の為、中止
生協販売会	年 0 回	0 名	コロナ禍の為、中止
イエローシートキャンペーン	年 0 回	0 名	イオン来店者との交流 コロナ禍の為、中止
一丁目公園祭り	年 0 回	0 名	町内会との交流、児童との交流 コロナ禍の為、中止
八木中祭	年 0 回	0 名	中学生との交流、学校との連携 コロナ禍の為、中止
八木山市民センターまつり	年 0 回	0 名	アート作品の展示、展示説明 コロナ禍の為、中止
八木山フェスタ	年 0 回	0 名	地域交流、団体との連携、喫茶営業 コロナ禍の為、中止

喫茶コンサート	年 0 回	0 名	地域交流、演奏家の発表の場 コロナ禍の為、中止
手つ学カフェ	年 0 回	0 名	地域交流、地域課題の共有 コロナ禍の為、中止
イオンサンタ訪問	年 1 回	0 名	地域交流、季節行事 コロナ禍の為、担当者より物品の寄贈のみ

< 渉外・他 > ※地域や法人行事等は含まず。

4 / 3	東北工業大学「地域のくらし共創デザイン研究所」キックオフ会 (WEB)	8 / 6	東北生活文化大学森敏美先生来所
4 / 1 5	就労支援 B 型「芽ぶき」性支援中止	8 / 1 8	1 回目八木山こども地域食堂開催
5 / 1 5	八木山防災連絡会総会参加	9 / 3 0	2 回目シニア大学 (八木山市民センター主催) 参加 ※講師: 理事長
6 / 1 0	1 回目シニア大学 (八木山市民センター主催) 参加 ※講師: 理事長	9 / 2 2	尚綱学院大学合同企業説明会参加
	光明支援学校実習 1 名	1 0 / 2 0	2 回目八木山こども地域食堂開催
6 / 3 0	尚綱学院大学 2 名見学	1 0 / 2 6	尚綱学院大学ゲストスピーカー
7 / 1 0	八木山防災連絡会参加	1 1 / 1 0	駅前ガーデン整備
7 / 1 5	光明支援学校実習 1 名	1 1 / 1 0	3 回目八木山こども地域食堂開催
8 / 2	東北工業大学ゲストスピーカー	1 1 / 1 7	健康相談 (八木山すずきクリニック)
		1 2 / 1 4	イオンサンタ来所

< 見学・訪問者一覧 >

来 訪 者										
実施月	見 学 者	実 習 者	一般来訪	利用・家族	業者関係	関係機関	地域関係	法 人 内	寄付・寄贈	小 計
4月	1	1	27	6	0	7	4	8	0	54
5月	0	1	39	4	2	7	2	2	0	57
6月	1	1	9	5	1	12	3	3	0	35
7月	6	1	0	2	1	5	0	5	0	20
8月	4	0	0	3	0	7	0	2	0	16
9月	1	2	24	4	0	6	0	2	0	39
10月	0	0	24	7	2	9	0	7	0	49
11月	3	0	8	2	1	7	3	5	0	29
12月	2	0	15	9	1	9	1	5	1	43
1月	1	3	7	1	6	6	0	0	1	25
2月	0	1	4	3	2	2	1	0	0	13
3月	0	0	13	4	2	3	0	3	0	25
合計	19	10	170	50	18	80	14	42	2	405

※見学欄に面接者含む。寄付寄贈に飲食物は含まず。利用者と一般、見学、実習以外は要件でカウントしている。

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

6 若林障害者福祉センター(生活介護事業・生活訓練事業) 事業報告

【はじめに】

令和2年度同様、新型コロナウイルス感染症の対応に追われた1年でした。連日500人前後の陽性者が確認されている令和4年4月現在とは異なり、年度当初の濃厚接触者に該当したグループホームさくらはうす入居者のフォローは、入居者の様子を知る職員が多くない状況や、経験年数や支援力の少なさから実際にフォローに入ることができる職員に限りがある中で、いかに利用者の生活の質を低下させず、利用者・職員に感染を広げないか、緊張が続いていた2週間でした。実際にフォローに入った職員の緊張は大きかったと想像に難くありません。

また、1月下旬、利用者に新型コロナウイルス陽性が確認され、当事業所は少人数による事業展開のため、職員ほぼ全員が濃厚接触者に該当しました。そのため、事業を停止する休館対応を余儀なくされました。しかし、内部研修での学びや職員間で共有されていた衛生の保持の視点が功を奏し、利用者・職員共に感染が広がることはありませんでした。この事を顧み、更なる感染対策を講じていますが、その事がつどいの家らしさを狭めていないか、失っていないかが常に去来していると共に、職員の支援力向上を奪っていないか不安が尽きません。

障害者福祉センターは、地域における障害者福祉の拠点として、青葉区を除く4区に設置され、開設当初と比較すると、しょうがいのある人を取り巻く社会的な状況の変化が生じてきたため、現状に合わせ令和元年度より障害者福祉センターのあり方について検討を重ねてきました。センターに所属する看護師は、他法人が運営する機能訓練事業と合わせて配置されていますが、所属は他法人であるが故、帰属を超えた利用者支援の統一性を図ることの難しさが常々ありました。そのため、センターの事業改変時には、法人所属の看護師配置を望みましたが、それが実現されず新年度を迎えることとなりました。令和4年度からは、障害者福祉センターの事業改変により、よりしょうがいの重い、また医療的ケアの必要な利用者の受け入れが強化されることから、若林障害者福祉センターとして法人枠を超えた支援の方向性を探る課題が次年度に持ち越されています。

【経営ビジョン実現に向けた取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 1事業所での支援で終結せず、複数の関係機関で支援する意識を持ち、関係機関と密に連絡・共有を図ることで、主体である利用者支援につながった。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 定期的な会議の場で協議する機会があったが、新型コロナウイルス感染症予防の為、取り組みが出来なかった。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 継続した地域とのかかわりを持ったことで、事業所ではなく利用者個人と地域とのつながりを持つことができた。

○ 財政基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- センターは、市の委託料により事業を展開している事もあり、職員（支援者）が法人内の他事業所に異動しても常にコストを意識し、経費のムダを省く行動を身に着けるよう努めた。

○ 人材育成及び研修等への取り組み

経営ビジョン5

- 個々の職員（支援者）に必要とされる基本的知識や支援力向上のため或いは利用者との関係の中で求められる技能の習得に努めたが、新型コロナウイルス感染症拡大により中止や事業所判断で参加を控えた研修があり、感染予防を意識しながらの取り組みであった。

【 その他重点的な取り組みと成果等 】

内 容	具体的な取り組み	目標とする成果等
ケアマネジメントの視点を常に意識した支援の実施	個々のしょうがい特性や家族の状況に則した支援を実施するために、丁寧な情報収集と課題を把握する。	利用者本人を取り巻く情報をより深く得たこと更にそれを関係機関と共有することで、ひとつの視点に寄らず多角的に利用者に向き合うことができた。
地震以外の大規模災害も想定した取り組み	居住地域の災害危険予測や災害時の避難ルートを本人家族と共に想定する。	感染症の拡大により、災害時の避難ルートを本人家族と共に想定するまでには至らなかった。
健康を意識した取り組み	・ 感染症等の正しい知識を得、衛生管理を学ぶ。 ・ 労働環境を整える。	・ 内部研修にて手指衛生や感染を広げない清掃方法を学んだことで、感染が拡大することなく対応できた。 ・ 休憩時間を見直したことで、めりはりを持ち業務にあたることができた。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
支 援 会 議	1回/月	個別支援計画立案・見直し・検討、各ケースの把握など * 仙台市障害者福祉協会看護師参加
職 員 会 議	1回/月	事業所運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
月 案 会 議	1回/月	活動の計画、体制調整、車輛使用予定確認など
センター運営会議	1回/月	各事業報告、センター運営の課題検討、意見交換など
センター広報委員会	1回/月	センター機関誌編集発行、センターまつり企画運営など
センター研修委員会	1回/月	センター内部研修企画・実施など
看護師連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と利用者の健康についての確認や情報交換など
給食連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と給食調整、課題検討など
送迎連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と送迎調整、課題検討など
入浴連絡会	1回/月	仙台市障害者福祉協会職員と入浴調整、課題検討など

< 内外部研修 >

- | | |
|--------------|-----------------------------|
| ・ 個別支援計画について | ・ 感染症対策（手の洗い方と清掃方法について） |
| ・ 新任職員研修 | ・ 仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修基礎研修 |
| ・ 上級救命講習 | ・ サービス管理責任者研修・基礎研修 |

< 行事等 >

新型コロナウイルス感染症予防対策にて、未実施

< 利用状況等 >

「 IV 参考資料 」に掲載

C 地域生活支援事業部

7 地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」事業報告

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症の流行による利用人数や外出対応に制限を設けながらの事業運営、利用者側の自粛の強まりで、「ホームヘルプサービス事業」「日中一時支援・短期入所事業」の両事業共に実績増加には至りませんでした。法人内の会議や研修等も中止や対面を避ける形となり、職員間のコミュニケーション場面が少なくなり、連携や人材育成の難しい1年でした。一方でリモート形式の外部研修が増え、研修会場への移動が省かれたことで遠方の主催団体の研修にも参加できるようになり、今後のスキルアップの機会に繋がっていきたいです。

法人内でのコロナ感染症陽性者への対応時には、職員自らが直接支援に入ると名乗り出るなど、法人職員としての意識の高さや使命感の強さを感じました。

建物においては、短期入所事業を実施している事業棟にスプリンクラーを設置し、消防設備を強化しました。設置の際に登録利用者に寄付を呼びかけたところ多くの協力をいただき、感謝の気持ちと同時に地域生活支援事業への期待の高さも実感しました。

【経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 合理的配慮等について、日々の支援の中で気づいたことを事業内の会議で共有しました。
- 権利擁護や自己決定の視点を持った支援ができるよう職員同士が助言し合える雰囲気作りを意識しました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 事業所通信では、福祉や障害者と接点のない方にも分かりやすい内容や表現を意識して作成しました。
- 町内会との定期的な話し合いという形には至りませんでしたが、清掃活動を合同で行なう計画を立てることはできました。（当日は雨天により中止）

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 町内会の行事へ積極的に参加したいところですが、休日の早朝開催が多く参加に課題を感じています。
- 地域との顔の見える関係作りの具体策検討が必要であると思います。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- コロナ禍が長期化している状況で、利用件数を増やし収益増加を目指すことに限界がありました。常勤率の見直しなど、支出を抑えることも視野に入れた事業展開を考えていく必要があると思います。
- プレハブ造りの事務棟の耐用年数超過については、重点課題の1つに上げていましたが、具体的な動きに移ることができませんでした。令和4年度は資金調達方法など、より具体的な話をする場としてプロジェクトチームを発足することとしました。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

- コロナ感染症が急拡大した際には中止を余儀なくされたが、状況を見ながらリモート形式でヘルパー連絡会を実施し、意見交換やヘルパー同士のコミュニケーションの機会を作りました。介護人連絡会でも感染症対策について事業所からの伝達、介護人との意見交換を行いました。ただし、参加率が低い為、開催日時などは改善が必要と感じています。
- 任意参加ではありますが、ヘルパー・介護人へも法人内選択研修の参加を呼びかけました。
- 内部研修では「依存」、「メンタルヘルス」をテーマに上げ、他者にも自身にも起こる得ることとして共有しました。
- 外部研修への参加をほぼ組むことができなかったため、計画的な研修参加計画が必要であると思いました。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
リスク管理	コロナ感染防止の取り組み強化 安全委員会へ看護師参加の機会 ヒヤリハット検証 救急車要請、行方不明等の対応訓練	行方不明などの緊急時のマニュアル確認は行いましたが、より具体的なシミュレーションまでできると良かったと思います。
公用車管理 安全運転	運行前免許証提示及び運行前点検励行 交差点や夜道等での安全運転研修 公用車の有効活用の検証	冬道、夜間の運転時の留意点について職員、介護人、ヘルパーと確認する機会を設けました。
職場内コミュニケーションの活性化	lon 1 ミーティングやトライアングルシステムによる面談を定期的実施	定例の面談については実施することができました。他にも対面形式に限らず、簡易的な書面聞き取りも実施しました。
地域貢献	春：南光台清掃ウォーキング 秋：三丁目公園落葉クリーンアップ 事業所通信に清掃活動の記事を掲載	清掃ウォーキングはコロナ禍により実施見合わせとなりました。 落ち葉拾いについては雨天により中止となりました。
働きやすい環境整備	衛生推進の工夫で職場環境を整える コロナ禍でもできる職員交流の場	感染症対策や振り返りを適宜、実施しました。 物品や書類の保管方法を今以上に工夫することで作業の効率化、美化に繋がり、より良い職場環境にできると感じています。
循環型の取り組み	太陽光パネル蓄電池の電力を活かした 防災訓練の実施 事業棟及び事務棟の節電推進 3 R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進	消防計画に沿った訓練を実施しました。 光熱費や排出ゴミを抑えるなどの節約の取り組みは課題が残りました。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内 容
チーフ会議	月 1 回	構成員：管理者・事務員・各事業チーフが参加 内容：各事業の現状共有・課題検討等
職員会議	月 1 回	構成員：全職員（※登録ヘルパー・介護人除く） 内容：会議・委員会の報告、法人の動向の共有・ぴぼっと南光台の課題検討、ヒヤリハット共有等

ぺんたす会議	月 1 回	構成員：ぺんたす職員（※登録ヘルパー除く）、管理者 内容：事業の課題検討・支援上の情報共有等
すてっぷ会議	月 1 回	構成員：すてっぷ・はうす職員（介護人除く）、地域支援部長、管理者、 副管理者、事務員 内容：事業の課題検討・支援上の情報共有等
すてっぷ勤務調整会議	月 1 回	構成員：すてっぷはうすチーフ、地域支援部長、管理者、副管理者 内容：翌月の利用調整、他事業へのフォロー要請判断等
サビ責ミーティング	月 1 回	構成員：サービス提供責任者 内容：業務の連絡調整、事業内の人材育成・支援向上に向けた取り組み、 ヘルパー連絡会の確認事項等
安全委員会	月 1 回	構成員：サービス提供責任者、医療的ケア職員、管理者、看護師 内容：医療的ケアを実施している利用者の状況共有等

< 地域交流室 >

すてっぷ サロン	コロナ感染症対策により、半日使用、食事なしの制限を設けながらも、地域住民や団体への貸し出しは継続しました。
-------------	---

< 内部研修 >

権利擁護・虐待防止研修

< 外部研修 >

衛生推進者養成講習

宮城県社協主催 コミュニケーション技術・対人援助技術研修

成年後見セミナー・オンライン研修

同行援護従事者養成研修（一般・応用）

<利用状況等> 「Ⅳ 参考資料」に掲載

8 地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」 事業報告

【 はじめに 】

相談支援事業「とびら」は、相談内容が複雑かつ複合化しており、委託・計画の件数も増加し続け、業務が煩雑化しているため、福祉ソフトや貸与スマホを導入し業務の効率化、ケース移管や終結に向けて内部検討を重ね調整してきました。コロナ禍の感染防止は、訪問の時間短縮や電話対応、オンラインなどの変化が求められ、状況によって事務室の分散化や在宅勤務など、個人情報管理に留意しながら相談体制を工夫しました。

日中一時支援事業「だいち」は、「すてっぷ・はうす」を中心に支援体制を組み、コロナ禍の利用制限にも対応できるよう調整しました。事業所間の行き来で時間がかかることや介護人不足の状況でしたが、職員の協力・連携で乗り切ることができました。

ぴぼっと支倉改修工事（11月着工）に向けて、仮移転先の交通局、行政、設計・工事関係者と打合せを重ね、概ね方向性は確認できました。コロナ禍で仮移転にかかる資材や運送費の値上り、テナントのつながりなど、事前に情報収集しながら準備を進めたいと思います。

【 経営ビジョン実現に向けた事業所としての取り組みと評価 】

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 法人内権利擁護虐待防止委員会主催の内部研修を「とびら」「くれよん」で合同開催し、職員相互の意見交換を通し意識向上を図りました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 区の自立支援協議会の各会議や高齢者地域会議等にオンラインで参加し、関係機関や他事業所と顔の見える関係づくりに努めました。
- 隣接する保育所と高齢系事業所、地域包括支援センターと共に、地域福祉の複合課題についての情報交換と隣接事業所の災害時の連携について話し合いました。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 支倉通信は業務負担を軽減するため年2回発行とし、配布先拡充には至りませんでした。
- コロナ禍により連合町内会の防災訓練は2年連続中止となりました。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン4

- とびらのケース移管により減収にはなりますが、残業過多とのバランスを考慮しました。
- だいちはコロナ感染状況により利用人数や時間等の制限について協力を求める必要があり、減収となりました。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 合同介護人連絡会を開催し、支援に関する勉強会を実施しました。
- 内部研修として、個人情報保護、メンタルヘルス、冬型交通事故防止など、業務と直結する内容を実施しました。
- 相談事業に関するオンデマンド研修を全体及び選択制にして実施しました。

＜その他重点項目に対する具体的な取り組みと評価＞

重点課題	具体的取り組み	評 価
リスク管理	コロナ感染防止の取り組み強化と看護師の巡回 避難訓練を保育所と同日開催 ヒヤリハットの検証	感染拡大時は事務室の分散化、訪問時間の短縮や電話応対等へ変更 相談員の看護師が地域系事業所を巡回
公用車管理 安全運転	公用車の運行前点検の励行 交差点、夜道等での安全運転研修 公用車とカーシェアの利用調整	運行前点検票の様式を地域系で共通化 雪道の安全運転について内部研修を実施
コミュニケーションの活性化	面談を定期的に実施 (1on1 ミーティング)	年度上旬、中旬、年度末に面談実施
働きやすい環境整備	衛生推進の工夫で職場環境を整える コロナ禍でもできる職員交流の場	コロナ感染対策補助金をもとに備品を整備
地域行事への参加	町内会総会への参加	町内会の会合が懇親会のため、コロナ禍により見合わせ
循環型の取り組み	3R (リデュース・リユース・リサイクル) の推進	コロナ禍につき換気や加湿が不可欠で節電難 資源のリサイクルを推進

【 事業実施状況等 】

＜ 諸会議 ＞

会議名	開催頻度	内容
とびらミーティング	週 1 回	ケースレビュー、支援方針検討
とびらケース検討会議	随時	よりこまめな支援方針の検討を行う
とびら全ケースレビュー	年 2 回	全ケースの状況を確認、ケース移管・終結の検討
支倉調整会議・衛生推進会議	月 1 回	管理者、総務、相談チーフ、すてっぷチーフで情報共有
職員会議	月 1 回	全職員で情報共有と協議確認事項

＜ 内外部研修 ＞

＜ 外部研修 ＞

権利擁護・虐待防止研修 個人情報保護研修 コロナ禍のメンタルヘルス研修 冬型交通事故防止に関する研修 等	相談支援初任者研修 中堅監督職員研修 サービス管理責任者更新研修	相談支援員現任研修 相談支援員向けオンデマンド研修 等
---	--	-----------------------------------

＜利用状況等＞ 「 IV 参考資料 」に掲載

9. 地域生活サポートセンター「ピボット若林」事業報告

○ はじめに

相談支援事業（計画相談/委託相談）は、障害種別を超えた対応が求められ、ケースレビューや事例検討等、職員個々のみならず、事業全体としてのスキルアップが求められています。今年度委託相談支援事業所と基幹相談センターの連携強化を目的とした合同ケースレビュー及び勉強会が企画され、基幹相談センターとの連携を図りました。また相談業務専門のソフトを導入し、業務の効率化が進みました。

ホームヘルプサービス事業は、相談事業、グループホームと連携し居宅介護時間数の安定的な確保に努めました。特定事業所加算の取得のための準備を行い、下半期よりサービス提供責任者と各グループホームの居宅介護従事者間で利用者状況の記録を共有できるよう試行しました。

「地域社会・地域住民との交流ができるような取り組み（講座、サロン等）を行う」を掲げましたが、コロナ禍のため取り組みはできませんでした。次年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえでどのようなことができるのかを考え、取り組んでいきたいと思っています。

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン 1

- 職員会議や内部研修等において、権利擁護に関するテーマを設けるとともに自己チェックリスト等を活用し、日々の支援の振り返りをする機会を設ける。
- 法人内相談支援事業所合同で内部研修を実施する。

権利擁護内部研修（11月）において、セルフチェックシートを活用し、職員自身の日々の支援の振り返りを行いました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン 2

…下記は新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで行う

- 地域行事へ参加し、交流を図る（資源回収、地域清掃、地域防災訓練、会報の発行等）。
- 地域の関係機関との協働（近隣の関係機関、町内会等）。
- 地域住民との交流ができるような取り組みを行う（講座、サロン等）

昨年度に引き続きコロナ禍のため町内会行事等が中止となり、地域交流の機会をもつことはあまりできませんでした。地域住民との交流ができるような取り組み（講座、サロン等）を予定していましたが、コロナ禍のためできませんでした。次年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで何らかの取り組みを行っていききたいと思っています。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン 3

- 地域住民との交流ができるような取り組みの実施。
- 通信を発行し、地域社会や関係機関等へ情報を発信する。

通信（「ぼけっと」）を発行し、情報の発信を行いました。地域交流等の取り組みについては、今年度は取り組むことができなかったため次年度実施できるよう準備をすすめたいと思っています。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン 4

- グループホームにおける居宅介護の利用実績の安定（特定事業所加算の取得）
- 報酬改定に対する情報の収集、整理

居宅介護においては、特定事業所加算の取得の準備のため、サービス提供責任者と居宅介護従事者との利用者状況に関する情報共有の方法を検討しました。下半期よりサービス提供責任者と各グループホームの居宅介護従事者間で利用者状況の記録を共有できるよう試行しました。次年度は特定事業所加算の取得を目指します。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み

経営ビジョン5

- 実際の職場での実務や外部研修参加を通して、スキルアップを図る。積極的にオンラインでの研修を活用する。職員会議における内部研修の実施。
- ピボット若林、グループホームの事業間の連携による人材育成。
- 社会福祉士養成校からの社会福祉援助技術実習の受け入れを行い、福祉の将来を担う人材を育成する。

コロナ禍のため外部研修は対面方式ではなく、オンライン研修が主流となりました。今年度は積極的にオンライン研修へ参加しました。毎月の職員会議では内部研修（内容は下記参照）を実施し、継続して学ぶ機会を設けました。今年度初めて東北福祉大学より社会福祉援助技術実習生1名の受け入れを行いました。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 区自立支援協議会、地域包括とのつながり、サロン、カフェ等への参画	地域課題の抽出と整理、若林区社会福祉協議会等の関係機関との連携	地域ネットワークの構築を目標としましたが、コロナ禍で開催中止となり、サロン等へ参加する機会はありませんでした。
(2) 旧レスパイト事業連絡協議会への参画	レスパイトから日中一時支援、短期入所へ移行後の諸課題整理、事業所間の連携	旧レスパイト事業連絡協議会を引継ぐ形で発足した仙台市短期入所事業所連絡協議会へ参画し、他の短期入所事業所等との情報交換を図りました。
(3) 地域住民との交流ができるような取り組み	講座、サロン等の実施	地域社会、地域住民との交流を目標としましたが、コロナ禍のため講座、サロン等の開催はできませんでした。
(4) 南小泉すきっぷ（賃貸）の利用	新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を活用 (⇒令和2年度で交付金は終了となる)	グループホーム入居者のひとり暮らしを目指す宿泊体験の場として活用しました。1月末のコロナウイルスクラスター発生の際に入居者が一時的に滞在する場所として使用しました。

【 事業実施状況等 】

< 諸会議 >

会議名	開催頻度	内容
職員会議	月1回	予定、法人関連・各事業進捗、会議・委員会報告等
チーフ会議	月1回	P若全体確認事項、法人関連・各事業進捗等

各事業会議	月 1 回	前月実績確認、確認事項、ヒヤリハット・事故確認、ケース関連等
ケースレビュー、事例検討	レビュー月 2 回 事例検討月 1 回	相談員が個別に対応しているケースについてチーム内での情報共有及び検討
区自立協運営会議	月 1 回	区自立支援協議会の運営に関する会議（事務局会議）
区相談実務者ネットワーク会議	年 2 回	区の障害福祉関係者の交流（顔の見える関係作り）、各種情報共有と課題解決
仙台市短期入所事業所連絡協議会	隔月	短期入所等事業全体の課題及び人材育成（研修会等の企画等）

< 内部研修 >

◇職員会議

- ・「親の備えから考える 障害者の親なきあとセミナー」（一般社団シニアパートナーズより）（5 月）
- ・「人権擁護・意思決定支援～よりより支援を目指して&セルフチェックシートによる振り返り」（日本知的障害者福祉協会）（6 月）
- ・社会福祉援助技術実習生によるサービス等利用計画作成の実践発表（7 月）
- ・「施設、事業所におけるリスクマネジメント」（日本知的障害者福祉協会）（8 月）
- ・「生活習慣病について」「こころの耳働く人のメンタルヘルスポータルサイトより」（9 月）
- ・「都市再生特別措置法改正の影響と対応」「線状降水帯って何？豪雨災害に備える」（日本グループホーム学会全国大会より）（10 月）
- ・権利擁護内部研修（11 月）
- ・「生まれてきてくれて、ありがとう 帆花」上映（12 月）
- ・「地域からみたグループホームとは」（仙台市グループホーム連絡会障害者グループホームセミナーより）（1 月）

< 外部研修 >

・成年後見制度について（三浦） ・医療的ケア児等支援者、コーディネーター養成研修（嶋田,山口） ・アーチル発達障害特別講座（三浦） ・医療的ケア児等コーディネーター情報交換会（福地,三浦） ・計画相談実務担当者研修会（三浦） ・宮城県高次脳機能障害研修（阿部） ・地域生活支援拠点実践報告会（福地）	・安全運転管理者講習会（飯田） ・セールスフォースセミナー（半沢） ・社会福祉法人の会計、税務入門（半沢） ・労務トラブル事例から学ぶ（半沢） ・障害者の親亡きあと問題に関する民事信託セミナー（半沢）
---	--

10. グループホーム 事業報告

○ はじめに

新型コロナウイルス感染症対策を継続し、感染拡大防止に取り組んでいましたが、4月、さくらほうすでは入居者が濃厚接触者となり、長期間グループホームでの療養生活となりました。また、1月末から2月中旬、入居者が新型コロナウイルスに罹患し、感染の拡がりがとても早く、入居者だけではなく、支援者にも拡大し、支援体制の確保が困難になりました。その間法人内事業所全体でグループホームのバックアップを行い、支援体制の確保に努めました。ひこうき雲、オキーノ、にじいろ、さくらほうすの入居者計10名が罹患しました。そのようななかで仙台市の行政の方々や宮城県看護協会の「相談窓口」の方に多くのアドバイス、励ましをいただきました。昨年度より宮城県看護協会派遣講師（感染管理認定看護師）によるゾーニング（生活空間の区分け）に関する指導を受けていましたので、感染者等が発生した場合に円滑に対応することができたと思われまます。

職員間の情報共有のために各グループホームへiPadを整備し、「チャットワーク」により情報の具現化、可視化を図りました。チャットワークの運用によりタイムリーに現場-サービス管理責任者、サービス提供責任者-管理者等が情報共有できるようになりました。新しいグループホーム開設に向けた準備については、法人内居住支援等事業検討会議のなかで開設時期、定員等について具体的な検討を進めました。

○ 権利擁護推進に向けた取り組み

経営ビジョン1

- 職員会議や職員全体研修会において、権利擁護に関するテーマを設けるとともに自己チェックリスト等を活用し、日々の支援の振り返りをする機会を設ける。
- 入居者懇談会を開催し、入居者の声をホーム運営にいかす。

権利擁護内部研修（11月）において、グループワークを通して自らの支援を振り返り、他のグループホーム職員と意見を交わす機会を持ちました。

入居者懇談会は入居者同士で各ホームの様子を聞き、ホームで困っていること等を話題にする機会となっています。今年度はコロナ禍で外出等の機会が少なくなっているため、余暇的な内容を取り入れながら行いました。

○ 地域交流・地域支援活動等の取り組み

経営ビジョン2

- 町内会活動に参加し、地域住民同士のつながりをもつ。

昨年度に引き続き今年度もコロナ禍のため町内会行事（夏祭り、防災訓練、地域清掃等）が中止となり、地域交流の機会をもつことはあまりできませんでした。

○ 地域社会等からの信頼性構築のための取り組み

経営ビジョン3

- 大規模震災や火災、洪水を想定した避難訓練を計画的に実施する。
 - グループホーム通信（「ももたろう通信」）を発行し、地域社会や関係機関等へ情報を発信する。
- 各ホームにおいて、消防訓練を年2回以上実施し、夜間を想定した訓練を実施しました。若林区内のグループホームにおいては、洪水を想定した避難訓練（7月）を実施しました。
- グループホーム通信（「ももたろう通信」）を年3回発行し、グループホームの入居者の生活等について情報の発信を行いました。

○ 財務基盤を確立させるための取り組み

経営ビジョン 4

- グループホームにおける居宅介護の積極的活用による運営を図る。

国の施策（グループホームへの給付）が十分とは言えない現状において、グループホームにおける居宅介護の積極的活用等による運営に努めました。居宅介護における特定事業所加算の取得準備のため、下半期よりサービス提供責任者と各グループホームの居宅介護従事者間で利用者状況の記録を共有できるよう試行しました。

○ 人材育成及び(事業所内)内部研修等の取り組み（派遣職員含）

経営ビジョン 5

- 実際の職場での実務や外部研修参加を通して、スキルアップを図る。
- 積極的にオンラインでの研修を活用する。
- 各ホーム職員会議及び職員全体研修会（年2回）を実施する。

コロナ禍のため外部研修の開催が中止となり、積極的にオンライン研修へ参加しました。

グループホーム全体の職員を対象とした研修を年2回（7月、11月）実施しました。7月には宮城県看護協会派遣講師（感染管理認定看護師）によるグループホーム職員を対象とした新型コロナウイルス感染症防止に関する研修会を実施し、ゾーニング（生活空間の区分け）に関する指導を受けました。グループホームで新型コロナウイルスが発生した場合に備え、各グループホームのゾーニングの可視化や衛生物品の備蓄を行いました。

○ その他重点的に取り組むこと

内 容	具体的な取り組み	評価
(1) 本人中心の個別支援計画の推進	各ホーム職員会議の定期的開催及びケース検討会の実施、ヘルパー連絡会との連携	ミーティングや職員会議にて、個別支援計画について情報共有を行いました。各ホームにおいて全体職員会議を行いました。今後も各ホームの職員会議の開催頻度を増やし職員間の意見交換を図りたいと思います。
(2) 通所施設等との連携強化	日々の入居者状況の連絡（引継ぎ）、連絡会の実施	日々のホームと通所施設での連絡（引継ぎ）以外にケア会議を実施し情報共有を図りました。加齢等に伴う健康面や今後の暮らしについて課題の共有が必要に思われます。
(3) 適時、職員間の情報共有	iPad によるチャットワークの運用	チャットワークの運用によりタイムリーに現場-サービス管理責任者-管理者等が情報共有できるようになりました。
(4) 南小泉すきっぷ（賃貸）の利用	新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を活用（⇒令和2年度で交付金は終了となる）	グループホーム入居者のひとり暮らしを目指す宿泊体験の場として活用しました。1月末のコロナウイルスクラスター発生の際に入居者が一時的に滞在する場所として使用しました。
(5) 他法人 GH 等との連携	GH に関する勉強会、研修会への参加	仙台市 GH 連絡会に参画し、研修会へ参加し、情報収集することができました。

○ その他の活動

- 関係機関（他 GH、日本 GH 学会等）と連携し、グループホーム運営等に関する情報収集を図る。
- 仙台市グループホーム連絡会へ参画し、グループホームに関する情報収集及び事業所間の交流を図る。

【 事業実施状況等 】

＜ 諸会議 ＞

会議名	開催頻度	内容
チーフ会議	月 2 回	法人、GH 運営の方向性、事業報告、課題検討等
職員会議	月 1 回	GH 運営の方向性、課題検討、意見交換、内部研修等
各ホームミーティング	月 1 回	諸会議報告、個別支援計画状況確認、意見交換等
各ホーム職員会議	隔月 1 回	入居者状況把握、個別支援計画確認、意見交換等
個別支援計画会議	年度初/中間/ 年度末	個別支援計画立案、見直し、検討等
家族懇談会	年 2 回程度	GH 全体状況確認、入居者状況把握、意見交換等
各グループホーム連絡会	年 3 回程度	GH・通所事業所の情報共有、意見交換等
入居者懇談会	月 1 回	意見交換、入居者イベント企画等

※ その他法人内各種委員会へ委員会担当が参加

＜ 内部/外部研修 ＞

＜ 内部研修 ＞ ◇グループホーム職員全体研修会 ・職員全体研修会（7/29. 幸町市民センターにて）「グループホーム職員を対象とする新型コロナウイルス感染症防止に関する研修会 ・権利擁護委員会主催内部研修（11/19. 幸町市民センターにて） ◇その他法人内研修（選択研修）へ対象者が参加 ＜ 外部研修 ＞ ・県社協アサーティブ研修（片桐） ・県社協中堅職員研修（佐藤靖） ・県社協アンガーマネジメント研修（佐々木） ・県社協新任職員研修（村上） ・東北ミサワホームセミナー（佐藤靖、後藤）	・県社協感染症予防研修（飯田、佐藤靖） ・仙台市グループホーム連絡会障害者グループホームセミナー「オンライン GH 見学会/グループワーク」（志藤、後藤、宮本、片桐） ・仙団協「福祉講座」（高橋、志藤、高階、佐藤靖） ・仙台市グループホーム連絡会障害者グループホームセミナー「講演」 ・日本グループホーム学会オンライン全国大会視聴
---	---

IV 參考資料

1 日中活動支援部門 利用実績

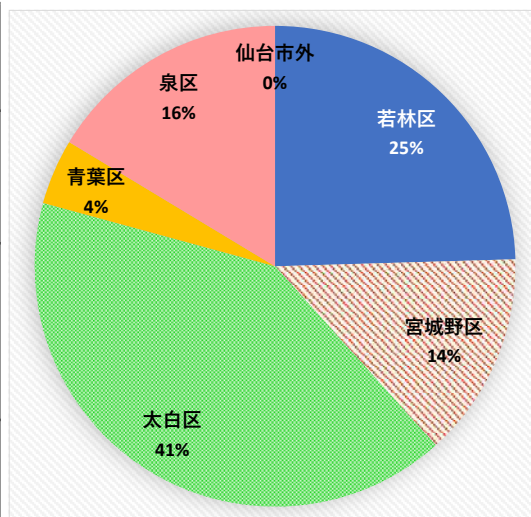
■利用者出欠状況

令和3年4月1日～令和4年3月31日

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月※	3月	合計
		開所日数	21	18	22	21	21	21	21	21	20	19	18	22	245
仙台つどいの家	仙台	利用予定者数	769	684	836	798	798	771	798	778	760	706	655	814	9,167
		実利用者数	630	627	778	724	732	700	740	705	685	610	582	709	8,222
		利用率	81.9%	91.7%	93.1%	90.7%	91.7%	90.8%	92.7%	90.6%	90.1%	86.4%	88.9%	87.1%	89.7%
		一日平均	34.24	40.50	40.32	39.24	40.05	38.62	40.52	38.76	39.65	36.89	37.50	37.64	38.67
	さんしょ	利用予定者数	115	107	128	123	122	121	122	117	116	111	105	129	1,416
		実利用者数	89	102	109	100	109	111	111	109	108	91	93	119	1,251
		利用率	77.4%	95.3%	85.2%	81.3%	89.3%	91.7%	91.0%	93.2%	93.1%	82.0%	88.6%	92.2%	88.3%
		一日平均	34.24	40.50	40.32	39.24	40.05	38.62	40.52	38.76	39.65	36.89	37.50	37.64	38.67
	合計	利用予定者数	884	791	964	921	920	892	920	895	876	817	760	943	10,583
		実利用者数	719	729	887	824	841	811	851	814	793	701	675	828	9,473
		利用率	81.3%	92.2%	92.0%	89.5%	91.4%	90.9%	92.5%	90.9%	90.5%	85.8%	88.8%	87.8%	89.5%
		一日平均	34.24	40.50	40.32	39.24	40.05	38.62	40.52	38.76	39.65	36.89	37.50	37.64	38.67
つどいの家・コベル	コベル①	利用予定者数	370	346	386	373	376	383	386	400	383	349	359	417	4,528
		実利用者数	331	315	379	355	363	357	372	377	366	329	264	382	4,190
		利用率	89.5%	91.0%	98.2%	95.2%	96.5%	93.2%	96.4%	94.3%	95.6%	94.3%	73.5%	91.6%	92.5%
		一日平均	36.30	36.11	37.36	36.00	34.33	36.43	35.81	37.91	36.76	33.32	26.21	33.87	35.12
	コベル②	利用予定者数	357	360	397	366	335	380	389	405	366	319	301	346	4,321
		実利用者数	328	320	379	345	304	352	319	388	342	267	196	328	3,868
		利用率	91.9%	88.9%	95.5%	94.3%	90.7%	92.6%	82.0%	95.8%	93.4%	83.7%	65.1%	94.8%	89.5%
		一日平均	36.30	36.11	37.36	36.00	34.33	36.43	35.81	37.91	36.76	33.32	26.21	33.87	35.12
	オリザ	利用予定者数	90	83	96	91	88	89	93	98	94	62	67	99	1,050
		実利用者数	67	51	64	56	54	56	61	69	64	37	38	69	686
		利用率	74.4%	61.4%	66.7%	61.5%	61.4%	62.9%	65.6%	70.4%	68.1%	59.7%	56.7%	69.7%	65.3%
		一日平均	36.30	36.11	37.36	36.00	34.33	36.43	35.81	37.91	36.76	33.32	26.21	33.87	35.12
	合計	利用予定者数	817	789	879	830	799	852	868	903	843	730	727	862	9,899
		実利用者数	726	686	822	756	721	765	752	834	772	633	498	779	8,744
		利用率	88.9%	86.9%	93.5%	91.1%	90.2%	89.8%	86.6%	92.4%	91.6%	86.7%	68.5%	90.4%	88.3%
		一日平均	36.30	36.11	37.36	36.00	34.33	36.43	35.81	37.91	36.76	33.32	26.21	33.87	35.12
つどいの家・アプリ	アプリ	開所日数	21	19	22	21	22	21	21	21	20	20	19	23	250
		利用予定者数	627	566	657	586	668	629	619	604	531	578	547	665	7,277
		実利用者数	550	498	594	540	536	539	539	520	507	488	435	542	6,288
		利用率	87.7%	88.0%	90.4%	92.2%	80.2%	85.7%	87.1%	86.1%	95.5%	84.4%	79.5%	81.5%	86.4%
		一日平均	26.19	26.21	27.00	25.71	24.36	25.67	25.67	24.76	25.35	24.40	22.89	23.57	25.15
	ミント	開所日数	21	19	22	21	22	21	21	21	20	20	19	23	250
		利用予定者数	118	106	119	101	125	119	114	115	98	110	102	126	1,353
		実利用者数	83	87	104	96	70	92	106	104	91	82	51	75	1,041
		利用率	70.3%	82.1%	87.4%	95.0%	56.0%	77.3%	93.0%	90.4%	92.9%	74.5%	50.0%	59.5%	76.9%
		一日平均	3.95	4.58	4.73	4.57	3.18	4.38	5.05	4.95	4.55	4.10	2.68	3.26	4.16
	合計	利用予定者数	745	672	776	687	793	748	733	719	629	688	649	791	8,630
		実利用者数	633	585	698	636	606	631	645	624	598	570	486	617	7,329
		利用率	85.0%	87.1%	89.9%	92.6%	76.4%	84.4%	88.0%	86.8%	95.1%	82.8%	74.9%	78.0%	84.9%
		一日平均	30.14	30.79	31.73	30.29	27.55	30.05	30.71	29.71	29.90	28.50	25.58	26.83	29.32
		一日平均	30.14	30.79	31.73	30.29	27.55	30.05	30.71	29.71	29.90	28.50	25.58	26.83	29.32
つどい八木の山家	八木山	開所日数	20	18	22	20	21	21	22	21	20	19	18	22	244
		利用予定者数	289	259	317	288	303	303	318	302	288	274	259	317	3,517
		実利用者数	252	231	290	258	256	238	282	277	272	236	208	276	3,076
		利用率	87.2%	89.2%	91.5%	89.6%	84.5%	78.5%	88.7%	91.7%	94.4%	86.1%	80.3%	87.1%	87.5%
		一日平均	12.60	12.83	13.18	12.90	12.19	11.33	12.82	13.19	13.60	12.42	11.56	12.55	12.61
		一日平均	12.60	12.83	13.18	12.90	12.19	11.33	12.82	13.19	13.60	12.42	11.56	12.55	12.61
若林障害者福祉センター	生活介護	開所日数	21	19	22	22	21	21	22	19	18	14	16	23	238
		利用予定者数	88	84	93	92	89	88	92	81	79	79	80	97	1,042
		実利用者数	70	59	71	71	69	71	76	67	63	48	40	67	772
		利用率	79.5%	70.2%	76.3%	77.2%	77.5%	80.7%	82.6%	82.7%	79.7%	60.8%	50.0%	69.1%	74.1%
	生活訓練	利用予定者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		実利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		利用率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		一日平均	3.33	3.11	3.23	3.23	3.29	3.38	3.45	3.53	3.50	3.43	2.50	2.91	3.24
	合計	利用予定者数	88	84	93	92	89	88	92	81	79	79	80	97	1,042
		実利用者数	70	59	71	71	69	71	76	67	63	48	40	67	772
		利用率	79.5%	70.2%	76.3%	77.2%	77.5%	80.7%	82.6%	82.7%	79.7%	60.8%	50.0%	69.1%	74.1%
		一日平均	3.33	3.11	3.23	3.23	3.29	3.38	3.45	3.53	3.50	3.43	2.50	2.91	3.24
日中活動部門 法人合計		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
		利用予定者数	2,823	2,595	3,029	2,818	2,904	2,883	2,931	2,900	2,715	2,588	2,475	3,010	33,671
		実利用者数	2,400	2,290	2,768	2,545	2,493	2,516	2,606	2,616	2,498	2,188	1,907	2,567	29,394
		利用率	85.0%	88.2%	91.4%	90.3%	85.8%	87.3%	88.9%	90.2%	92.0%	84.5%	77.1%	85.3%	87.3%
		一日平均 (5拠点計)	116.61	123.33	125.82	121.65	117.40	119.81	123.32	123.10	123.41	114.56	103.35	113.79	118.95

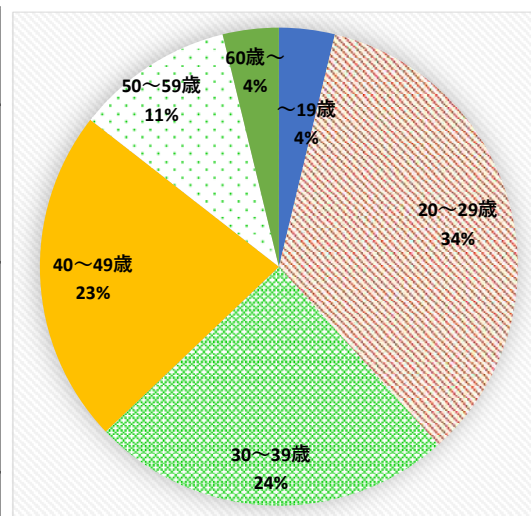
■利用者居住地

		若林区	宮城野区	太白区	青葉区	泉区	仙台市外	合計
つといの家 仙台	仙台	1	12	1	3	21	0	38
	さんしょ	0	2	0	0	5	0	7
	合計	1	14	1	3	26	0	45
つといの家 コペルの家	コペル①	16	3	9	0	0	0	28
	コペル②	9	1	2	2	0	0	14
	オリザ	3	2	2	0	0	0	7
	合計	28	6	13	2	0	0	49
つといの家 アプリの家	アプリ	1	0	30	0	0	0	31
	ミント	0	0	7	0	0	0	7
	合計	1	0	37	0	0	0	38
つといの家 八木の家	生活介護	1	1	11	2	0	0	15
若林障害者 福祉センター	生活介護	8	1	3	0	0	0	12
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0
	合計	8	1	3	0	0	0	12
法人 通所合計	合計	39	22	65	7	26	0	159



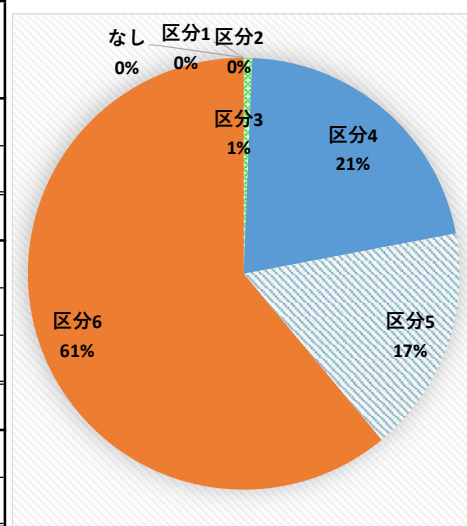
■利用者年齢区分

		～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計
仙台つといの家	仙台	1	9	8	12	6	2	38
	さんしょ	0	2	1	3	1	0	7
	合計	1	11	9	15	7	2	45
つといの家 コペルの家	コペル①	1	6	8	4	0	1	20
	コペル②	0	3	6	6	4	3	22
	オリザ	1	2	3	0	1	0	7
	合計	2	11	17	10	5	4	49
つといの家 アプリの家	アプリ	2	15	5	7	2	0	31
	ミント	0	4	3	0	0	0	7
	合計	2	19	8	7	2	0	38
つといの家 八木の家	生活介護	1	9	2	1	2	0	15
若林障害者 福祉センター	生活介護	0	5	3	3	1	0	12
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	5	3	3	1	0	12
法人 通所合計	合計	6	55	39	36	17	6	159



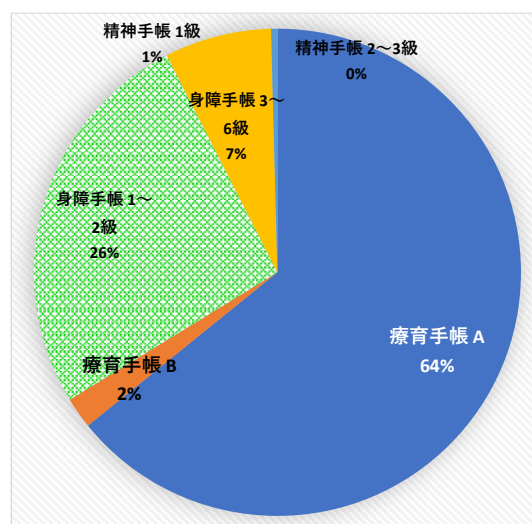
■障害支援区分

		なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均
つといの家 仙台家	仙台	0	0	0	0	13	4	21	5.2
	さんしょ	0	0	0	0	0	0	7	6.0
	合計	0	0	0	0	13	4	28	5.3
つといの家 コペルの家	コペル①	0	0	0	0	6	4	8	5.1
	コペル②	0	0	0	0	3	5	16	5.5
	オリザ	0	0	0	0	0	0	7	6.0
	合計	0	0	0	0	9	9	31	5.4
つといの家 アプリの家	アプリ	0	0	0	1	3	4	23	5.6
	ミント	0	0	0	0	0	0	7	6.0
	合計	0	0	0	1	3	4	30	5.7
つといの家 八木の家	生活介護	0	0	0	0	7	6	2	4.7
障害福祉センター	生活介護	0	0	0	0	2	4	6	5.3
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	合計	0	0	0	0	2	4	6	5.3
法人 通所合計	合計	0	0	0	1	34	27	97	5.4



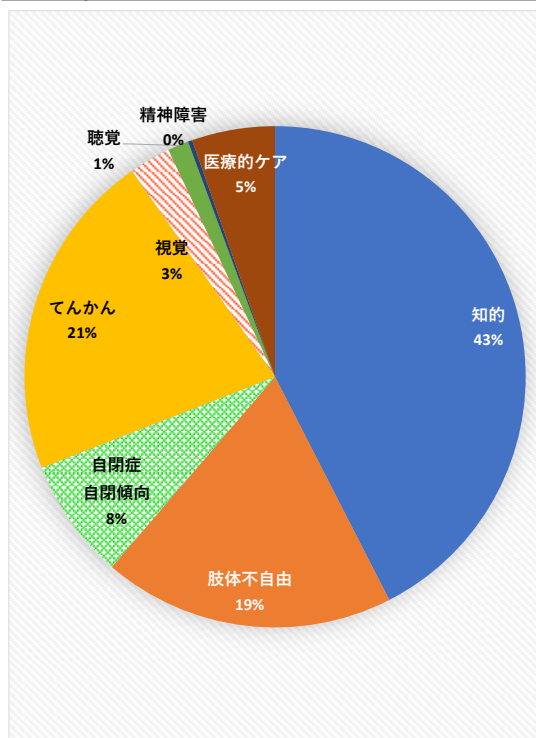
■手帳保持状況

		療育手帳		身障手帳		精神手帳	
		A	B	1 級 2 級	3 級 6 級	1 級 2 級	3 級 6 級
つといの家 仙台家	仙台	38	0	11	9	0	0
	さんしょ	7	0	7	0	0	0
	合計	45	0	18	9	0	0
つといの家 コペルの家	コペル①	20	0	1	2	0	0
	コペル②	21	1	15	2	0	0
	オリザ	7	0	7	0	0	0
	合計	48	1	23	4	0	0
つといの家 アプリの家	アプリ	30	1	10	3	0	0
	ミント	6	1	7	0	0	0
	合計	36	2	17	3	0	0
つといの家 八木の家	生活介護	13	2	2	1	1	0
障害福祉センター	生活介護	12	0	3	0	0	0
	生活訓練	0	0	0	0	0	0
	合計	12	0	3	0	0	0
法人 通所合計	合計	154	5	63	17	1	0



■利用者障害種別

		知的	肢体不自由	自閉症 自閉傾向	てんかん	視覚	聴覚	精神障害	医療的ケア
つといの家 仙台の家	仙台	38	16	10	17	3	5	0	2
	さんしょ	7	7	0	7	0	0	0	6
	合計	45	23	10	24	3	5	0	8
つといの家 コペルの家	コペル①	20	1	6	8	3	0	0	0
	コペル②	22	13	0	14	1	0	0	0
	オリザ	7	7	0	7	1	0	0	4
	合計	49	21	6	29	5	0	0	4
つといの家 アブリの家	アブリ	31	12	10	16	0	0	0	0
	ミント	7	7	0	4	2	0	0	5
	合計	38	19	10	20	2	0	0	5
つといの家 八木の山家	生活介護	15	3	7	3	1	0	1	0
福祉センター 若林障害者	生活介護	11	4	3	6	0	0	1	3
	生活訓練	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	11	4	3	6	0	0	1	3
法人 通所合計	合計	158	70	29	79	10	5	1	20



2 地域生活支援部門 利用実績

■ 短期入所・日中一時支援 事業実績

(令和4年3月末日時点)

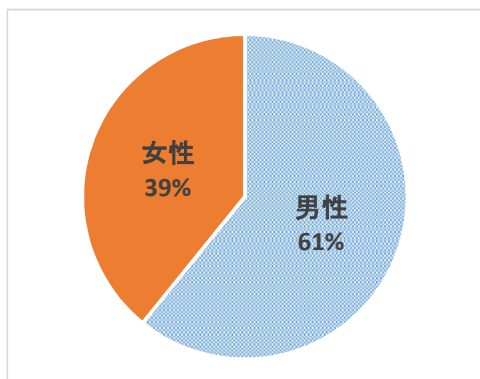
利用契約者数 : 240名 (令和2年度比: △30名)

※3拠点合算

1. 利用登録者状況

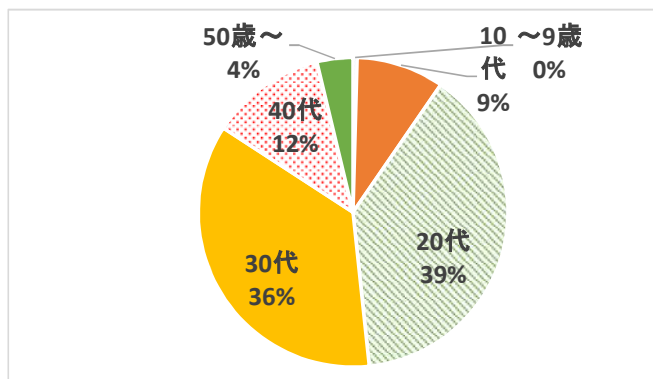
【性別】

利用登録者	男性	女性
性別	146	94



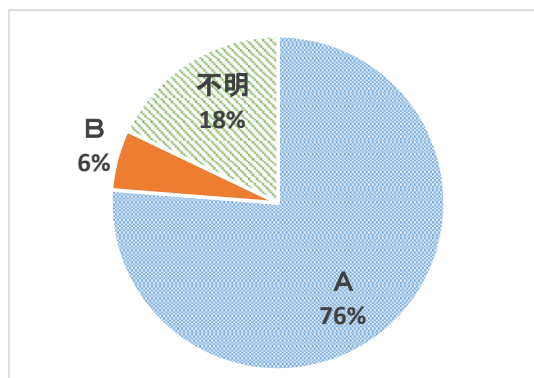
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	1	22	93	86	29	9



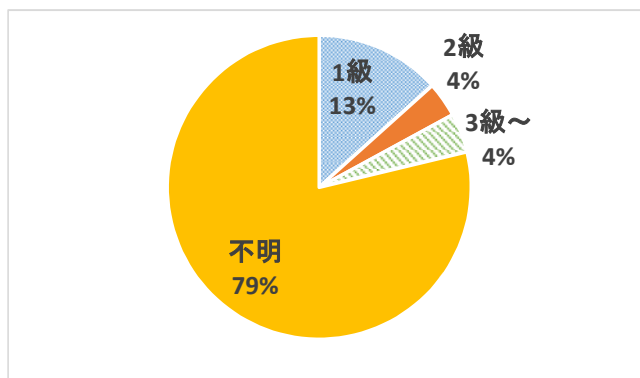
【療育手帳】

利用登録者	A	B	不明
療育手帳保持	183	14	43



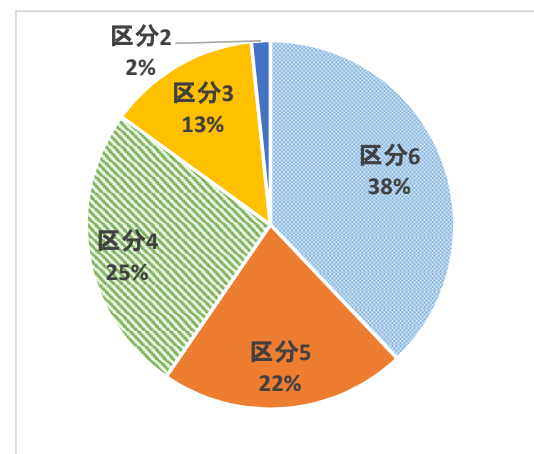
【身障手帳】

利用登録者	1級	2級	3級～	不明
身障手帳保持	32	9	10	189



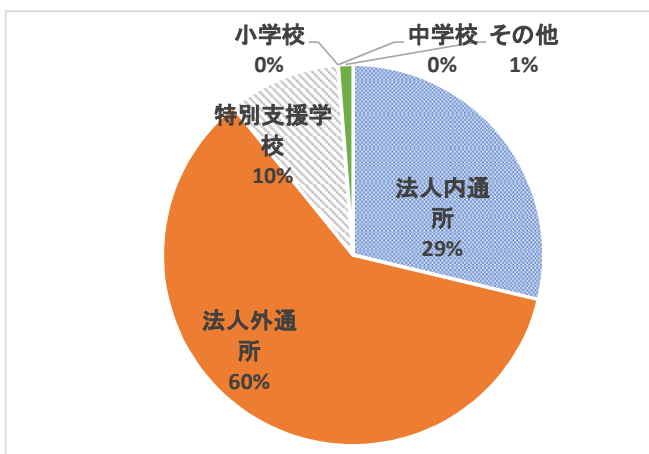
【障害支援区分】

区分6	区分5	区分4	区分3	区分2
91	52	61	32	4



【在籍】

法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
69	145	23	0	0	3



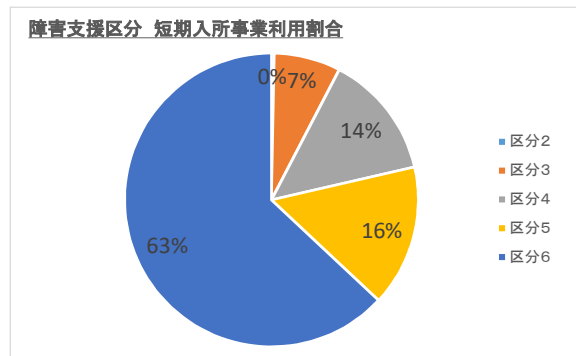
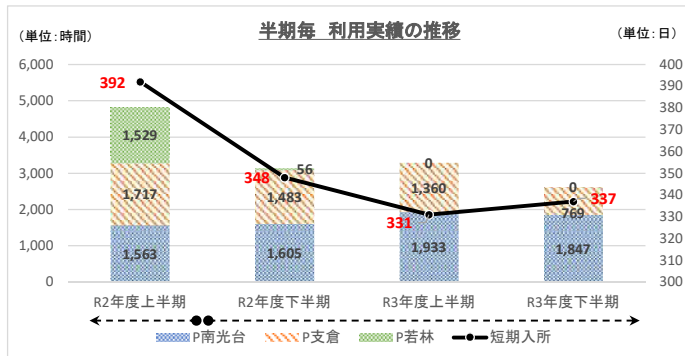
【利用実績】

《日中一時支援事業》

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	合計
3拠点 合算	時間	548	527	483	580	586	569	573	537	607	372	160	367	492.4	5,909
	件数	175	158	172	176	185	172	188	167	190	136	59	141	159.9	1,919
	送迎（件数）	203	191	206	205	189	184	211	167	197	139	65	151	175.7	2,108
すてつ ぶ・はうす	時間	278	319	251	329	377	379	426	352	441	275	107	246	315.0	3,780
	件数	105	96	104	109	121	115	138	120	140	100	40	95	106.9	1,283
	送迎（件数）	135	119	136	134	127	130	157	125	151	109	45	111	123.3	1,479
だいち	時間	270	208	232	251	209	190	147	185	166	97	53	121	177.4	2,129
	件数	70	62	68	67	64	57	50	47	50	36	19	46	53.0	636
	送迎（件数）	68	72	70	71	62	54	54	42	46	30	20	40	52.4	629
すきつぷ	時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	送迎（件数）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0

《短期入所事業》

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	合計
3 拠点 合算	区分2(日数)	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	2
	区分3(日数)	11	4	2	2	10	2	2	2	4	8	0	2	4.1	49
	区分4(日数)	10	10	12	6	7	10	7	12	6	6	2	4	7.7	92
	区分5(日数)	7	8	8	9	8	13	11	12	16	4	3	5	8.7	104
	区分6(日数)	23	29	30	38	40	30	46	40	46	36	18	45	35.1	421
	食数(回数)	50	51	54	55	54	51	58	60	70	48	19	54	52.0	624
	送迎(件数)	22	21	22	24	21	20	24	28	22	18	7	19	20.7	248
	緊急受入(日数)	2	0	0	0	4	2	2	2	0	0	0	2	1.2	14
すてつ ぶ・はうす	区分2(日数)	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	2
	区分3(日数)	11	4	2	2	10	2	2	2	4	8	0	2	4.1	49
	区分4(日数)	10	10	12	6	7	10	7	12	6	6	0	4	7.5	90
	区分5(日数)	7	8	8	9	8	13	11	12	16	4	3	5	8.7	104
	区分6(日数)	23	29	30	38	38	30	46	40	46	34	18	45	34.8	417
	食数(回数)	50	51	54	55	54	51	58	60	70	48	19	54	52.0	624
	送迎(件数)	22	21	22	24	20	20	24	28	22	17	6	19	20.4	245
	緊急受入(日数)	2	0	0	0	4	2	2	2	0	0	0	2	1.2	14
だいち	区分2(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分3(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分4(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0.2	2
	区分5(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分6(日数)	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0.3	4
	食数(回数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	送迎(件数)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0.3	3
	緊急受入(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
すきつぷ	区分2(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分3(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分4(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分5(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	区分6(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	食数(回数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	送迎(件数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0
	緊急受入(日数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0

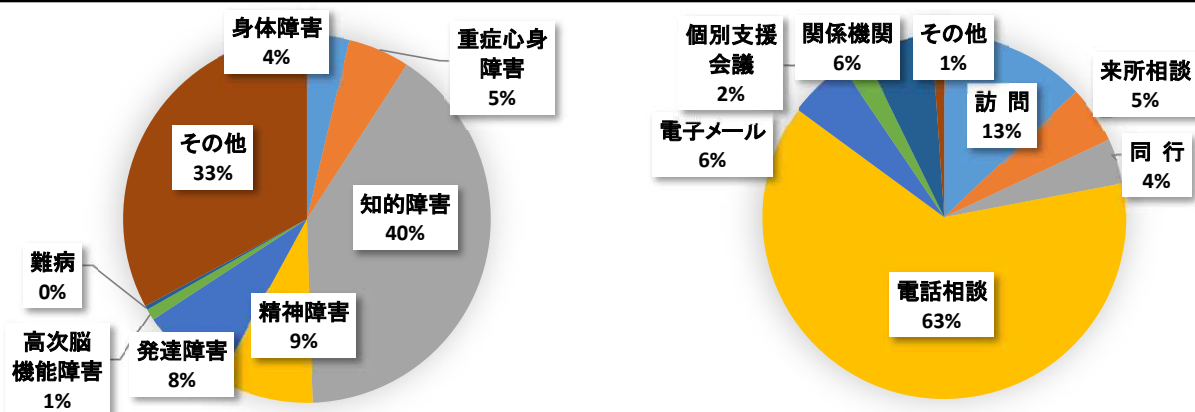


■ 障害者相談支援事業 事業実績

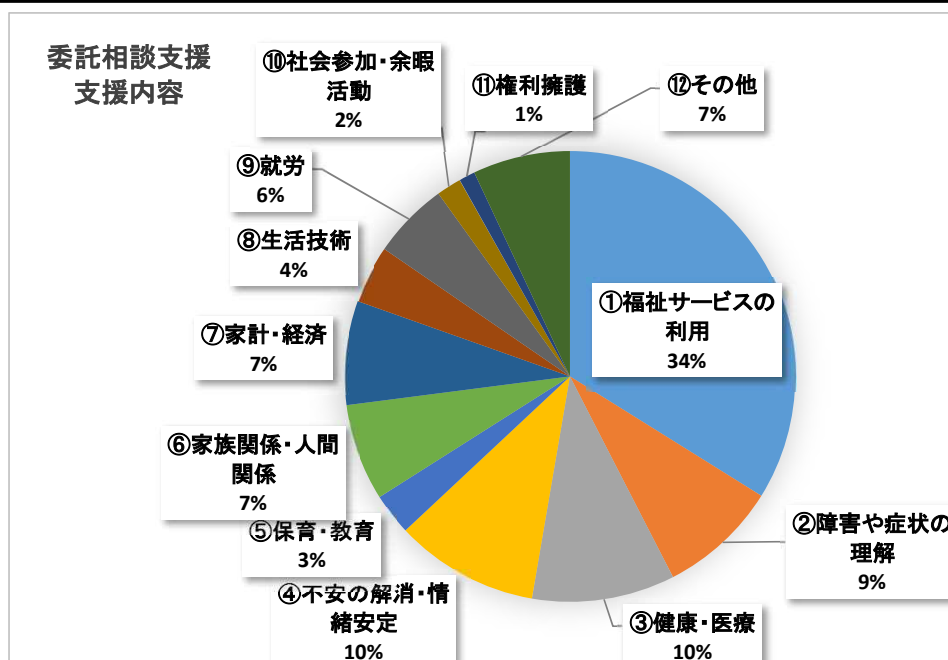
○ 実施施設： 地域生活サポートセンター「びぼっと支倉」 障害者相談支援事業所「とびら」

委託相談支援対象者									
対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	251	10	12	100	25	9	3	1	91
障害児	44	1	4	19	0	14	0	0	6
計	295	11	16	119	25	23	3	1	97

支 援 方 法									
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数	280	111	87	1,370	118	48	134	24	2,172



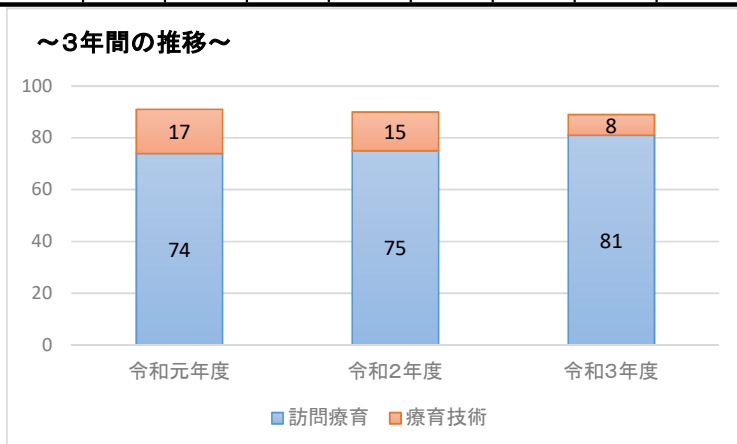
支 援 内 容							
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済
延件数	736	186	223	224	65	151	162
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他		合計
延件数	90	119	39	25	152		2,172



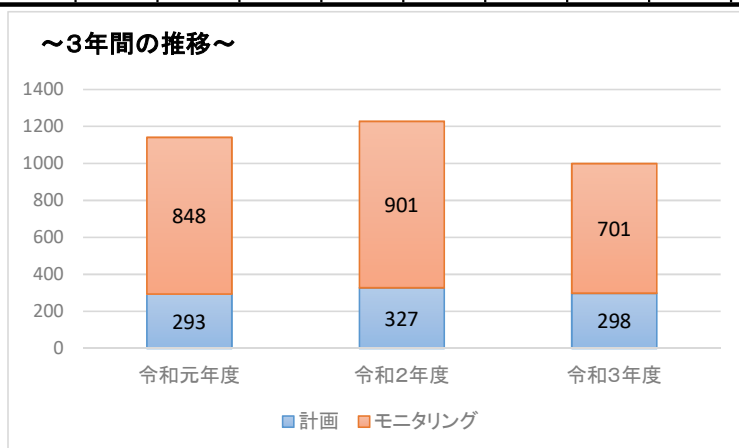
～ 前年度との比較 ～

①	△ 12.2 %	↘
②	0.1 %	→
③	3.4 %	↗
④	4.1 %	↗
⑤	0.1 %	→
⑥	△ 0.1 %	→
⑦	2.9 %	↗
⑧	△ 3.2 %	↘
⑨	△ 1.8 %	↘
⑩	0.3 %	→
⑪	0.9 %	↗
⑫	5.8 %	↗

仙 台 市 障 害 児 等 療 育 支 援 事 業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	6	6	9	3	8	6	7	13	7	7	4	5	81
療育技術指導事業	0	0	1	2	0	1	2	2	0	0	0	0	8
計	6	6	10	5	8	7	9	15	7	7	4	5	89



サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	19	23	25	28	27	20	30	32	27	22	22	23	298	24.8
モニタリング	54	73	59	50	66	43	66	49	44	72	39	86	701	58.4
計	73	96	84	78	93	63	96	81	71	94	61	109	999	83.3



□ 利用契約者数の推移(前年度比較)

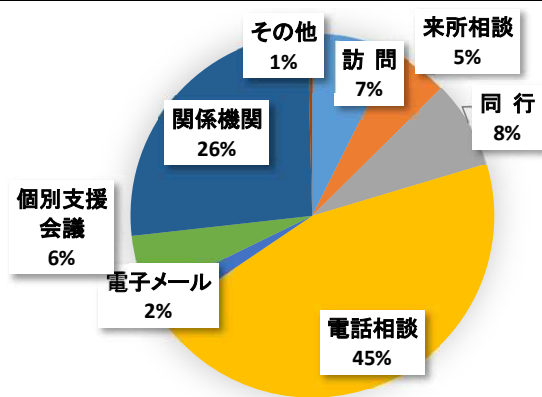
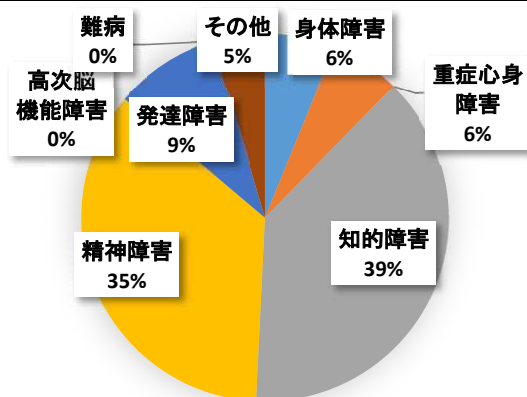
※3月末日現在

年 度	令和3年度		令和2年度		増減数	
計画相談契約者数	231	名	259	名	△ 28	名
うち 成人数	194	名	203	名	△ 9	名
うち 児童数	37	名	56	名	△ 19	名
一般相談登録者数	89	名	131	名	△ 42	名
相談員数	7	名	7	名	0	名
一人あたりの担当ケース数(平均)	45.7	名	55.7	名	-10.0	名

○ 実施施設： 地域生活サポートセンター「ピボット若林」 障害者相談支援事業所「くれよん」

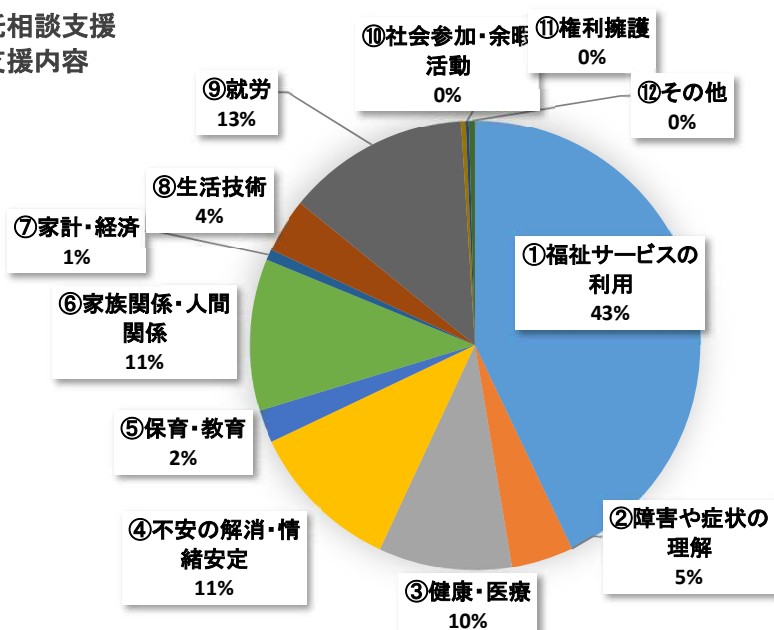
委託相談支援対象者									
対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	47	2	2	15	23	2	0	0	3
障害児	18	2	2	10	0	4	0	0	0
計	65	4	4	25	23	6	0	0	3

支 援 方 法									
方法分類	訪 問	来所相談	同 行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
延件数	53	37	56	324	16	39	189	3	717



支 援 内 容							
内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済
延件数	386	40	86	99	21	98	7
内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他		合計
延件数	35	118	3	2	4		899

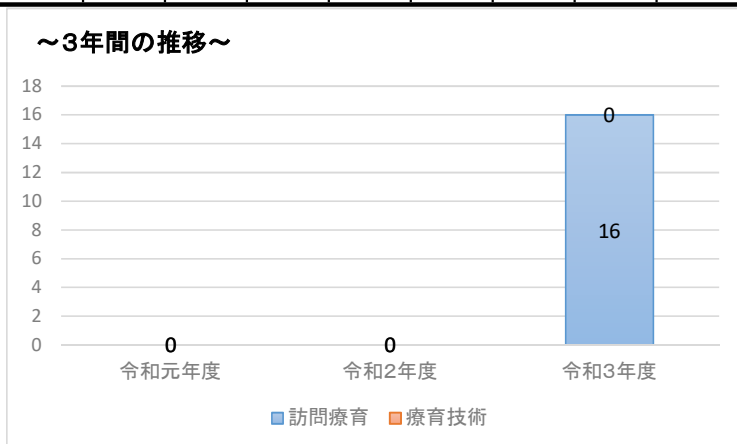
委託相談支援
支援内容



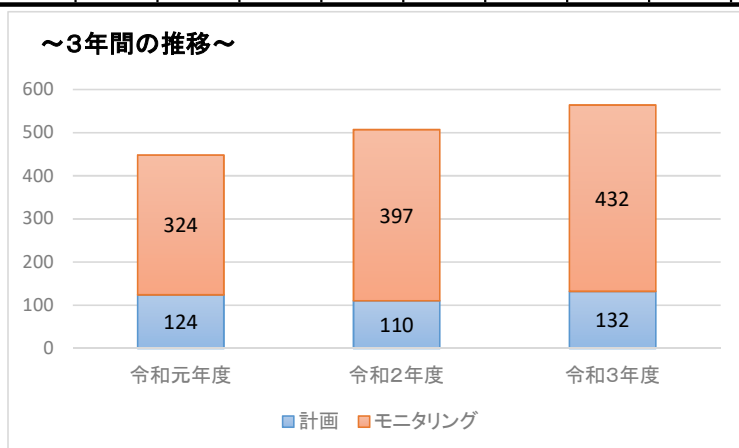
～ 前年度との比較 ～

①	8.7 %	↑
②	1.3 %	↑
③	△ 4.5 %	↓
④	0.6 %	→
⑤	△ 3.9 %	↓
⑥	△ 2.6 %	↓
⑦	△ 2.4 %	↓
⑧	△ 1.0 %	↓
⑨	4.6 %	↑
⑩	△ 0.7 %	→
⑪	△ 0.4 %	→
⑫	0.2 %	→

仙 台 市 障 害 児 等 療 育 支 援 事 業													
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問療育相談事業	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	1	7	16
療育技術指導事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	1	7	16



サ ー ビ ス 利 用 計 画 作 成 及 び モ ニ タ リ ン グ 実 施 状 況														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	13	15	9	9	18	6	13	9	7	15	8	10	132	11.0
モニタリング	41	36	27	36	38	40	35	45	26	36	42	30	432	36.0
計	54	51	36	45	56	46	48	54	33	51	50	40	564	47.0



□ 利用契約者数の推移(前年度比較)

※3月末日現在

年 度	令和3年度		令和2年度		増減数	
計画相談契約者数	148	名	139	名	9	名
うち 成人数	140	名	132	名	8	名
うち 児童数	8	名	7	名	1	名
一般相談登録者数	40	名	37	名	3	名
相談員数	4	名	4	名	0	名
一人あたりの担当ケース数(平均)	47.0	名	44.0	名	3.0	名

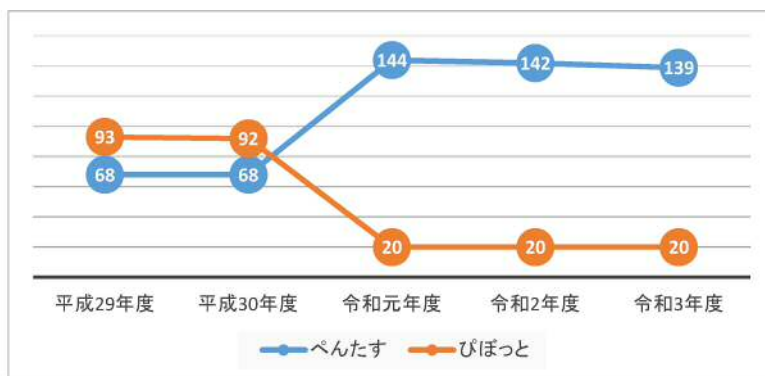
■ 居宅介護等 事業実績

(令和4年3月末日時点)

1. 利用契約者数の推移

年 度	ぺんたす	びぼっと	計
平成29年度	68	93	161
平成30年度	68	92	160
令和元年度	144	20	164
令和2年度	142	20	162
令和3年度	139	20	159

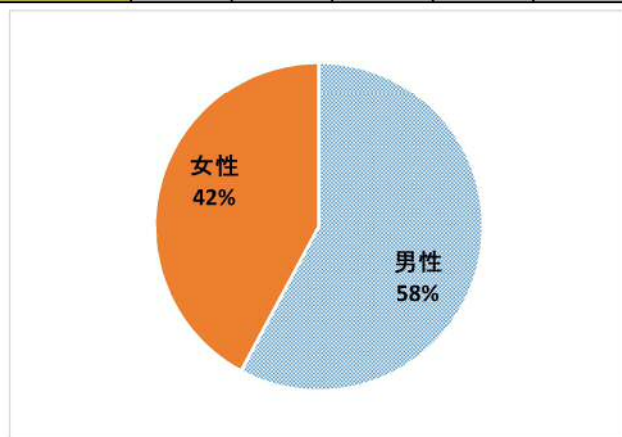
※令和元年度より事業所再編



2. 利用契約者の概要

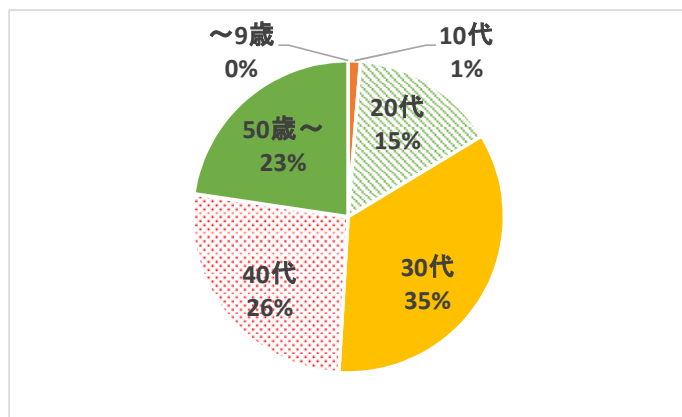
【性 別】

利用登録者	合計		(内 訳)			
	男性	女性	ぺんたす		びぼっと	
性 別	92	67	男性	女性	男性	女性
			78	61	14	6



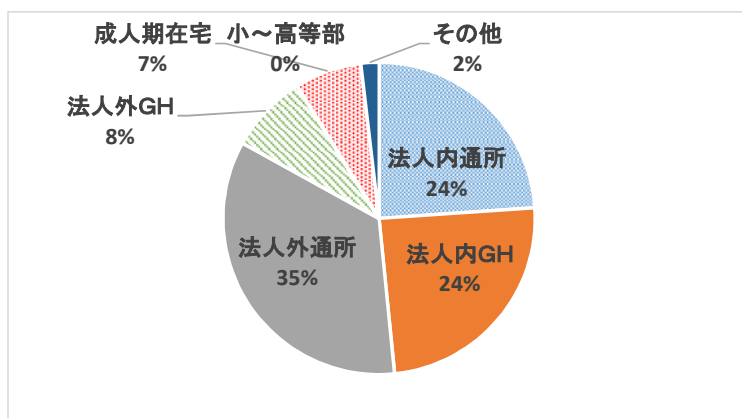
【年齢別】

利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年 齢 別	0	2	24	55	42	36
(内 訳)	ぺんたす	0	2	24	55	35
	びぼっと	0	0	0	7	13



【在 籍】

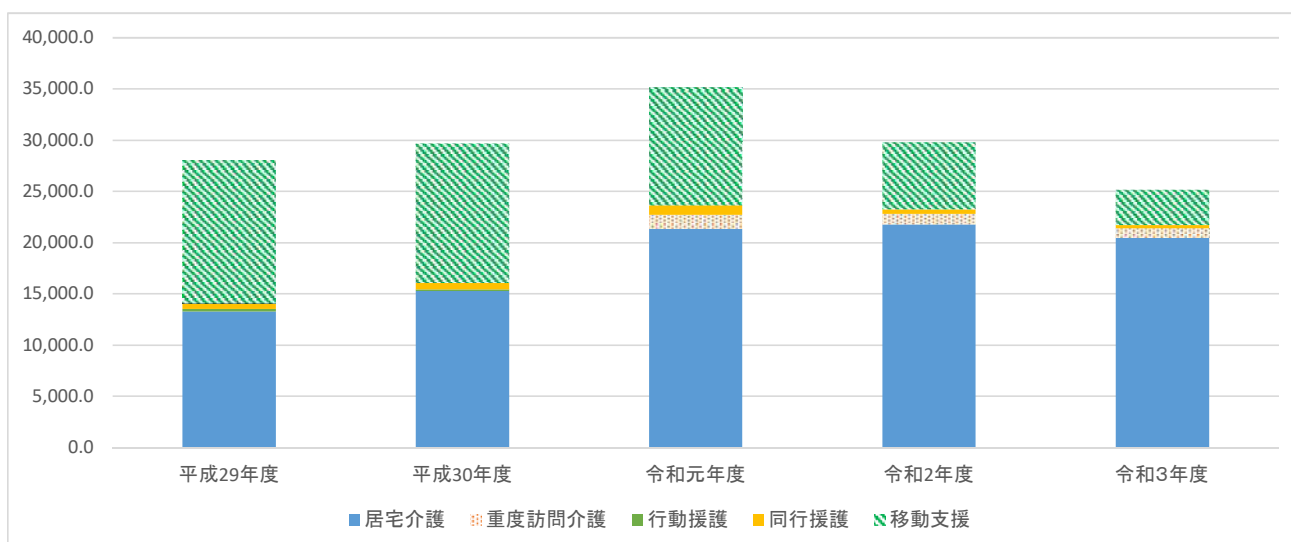
利用登録者	法人内通所	法人内GH	法人外通所	法人外GH	小～高等部	成人期在宅	その他
在籍状況	38	39	55	13	0	11	3
(内訳)							
ぺんたす	38	19	55	13	0	11	3
びぼっと	0	20	0	0	0	0	0



3. 利用状況

(単位:時間)

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
居宅介護	ぺんたす	9,129.5	9,961.5	4,932.5	4,458.0	4,184.5
	びぼっと	4,152.5	5,305.0	16,426.0	17,316.5	16,275.5
重度訪問介護	ぺんたす	0.0	0.0	1,382.0	1,047.0	967.5
	びぼっと	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
行動援護	ぺんたす	256.0	157.0	0.0	0.0	0.0
	びぼっと	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
同行援護	ぺんたす	176.5	97.5	666.5	269.0	285.5
	びぼっと	368.0	529.0	274.0	152.5	18.5
移動支援	ぺんたす	4,244.5	4,110.5	11,505.0	6,581.0	3,434.5
	びぼっと	9,719.5	9,518.0	0.0	0.0	0.0
合 計	ぺんたす	13,806.5	14,326.5	18,486.0	12,355.0	8,872.0
	びぼっと	14,240.0	15,352.0	16,700.0	17,469.0	16,294.0



■ 福祉有償運送 事業実績

(令和4年3月末日時点)

1. 利用登録者状況

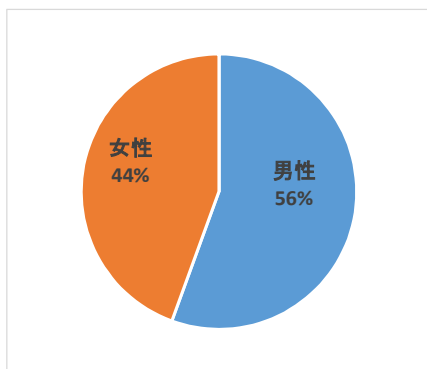
【総 数】

実施事業所名	令和3年度	令和2年度	前年度比
びぼっと南光台	9	9	0

※P若林、P支倉は平成29年9月末日をもって事業終了

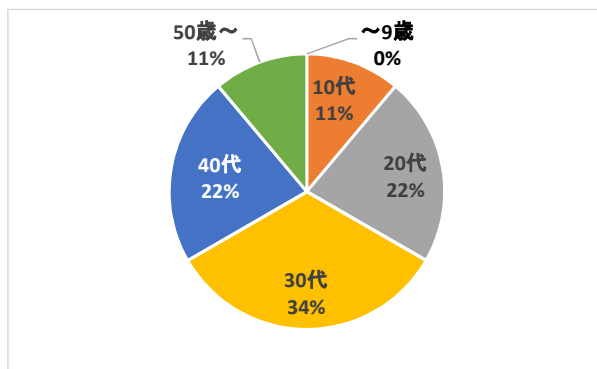
【性 別】

事業所名	男性	女性
びぼっと南光台	5	4



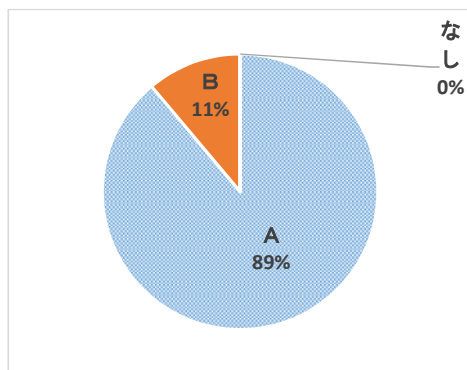
【年齢別】

事業所名	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
びぼっと南光台	0	1	2	3	2	1



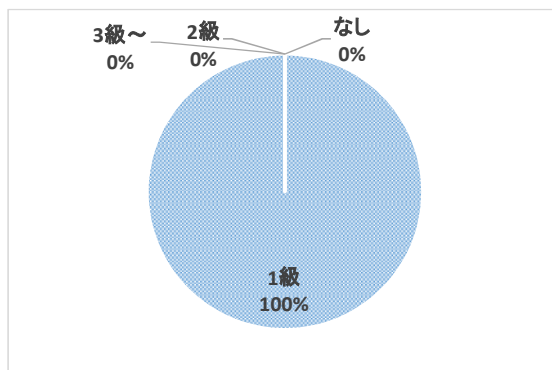
【療育手帳】

事業所名	A	B	なし
びぼっと南光台	8	1	0



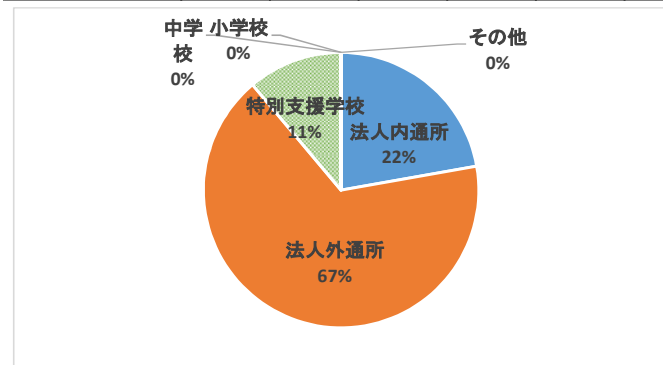
【身障手帳】

事業所名	1級	2級	3級～	なし
びぼっと南光台	2	0	0	0



【在 籍】

事業所名	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
びぼっと南光台	2	6	1	0	0	0

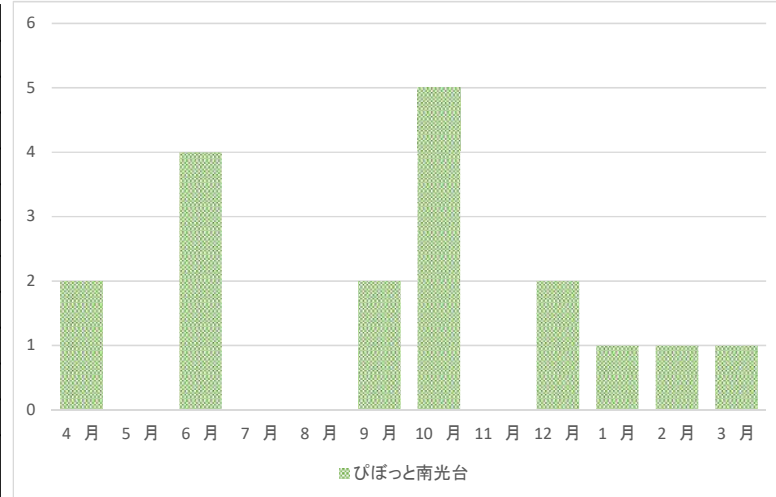


2. 利用状況

【月別運行回数】

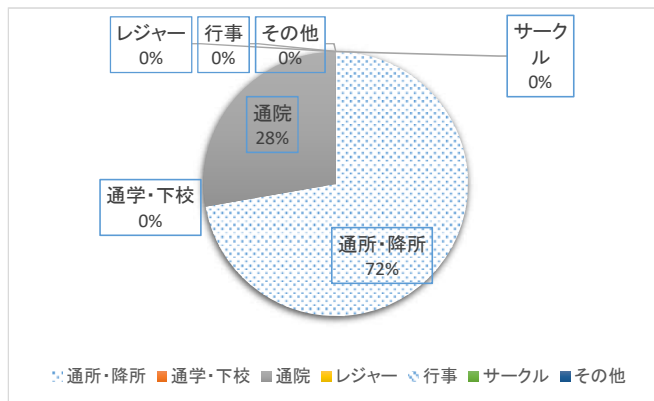
(単位:回)

	びぼっと南光台
4 月	2
5 月	0
6 月	4
7 月	0
8 月	0
9 月	2
10 月	5
11 月	0
12 月	2
1 月	1
2 月	1
3 月	1
合 計	18



【利用目的別】

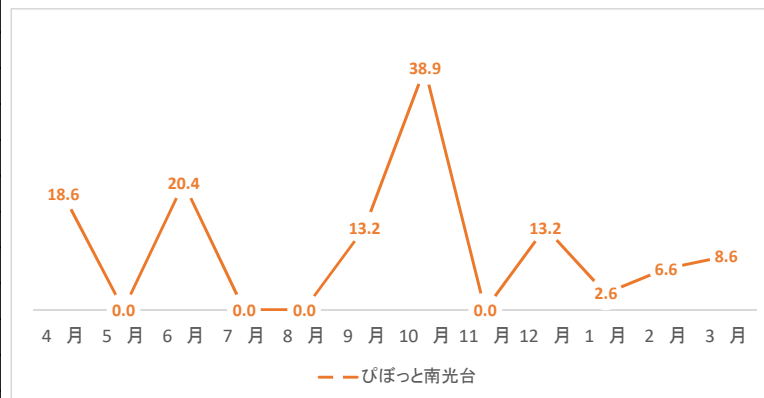
事業所名	通所・降所	通学・下校	通院	レジャー	行事	サークル	その他
びぼっと南光台	13	0	5	0	0	0	0



【事業所別 移送距離】

(単位:km)

	びぼっと南光台
4 月	18.6
5 月	0.0
6 月	20.4
7 月	0.0
8 月	0.0
9 月	13.2
10 月	38.9
11 月	0.0
12 月	13.2
1 月	2.6
2 月	6.6
3 月	8.6
合 計	122.1

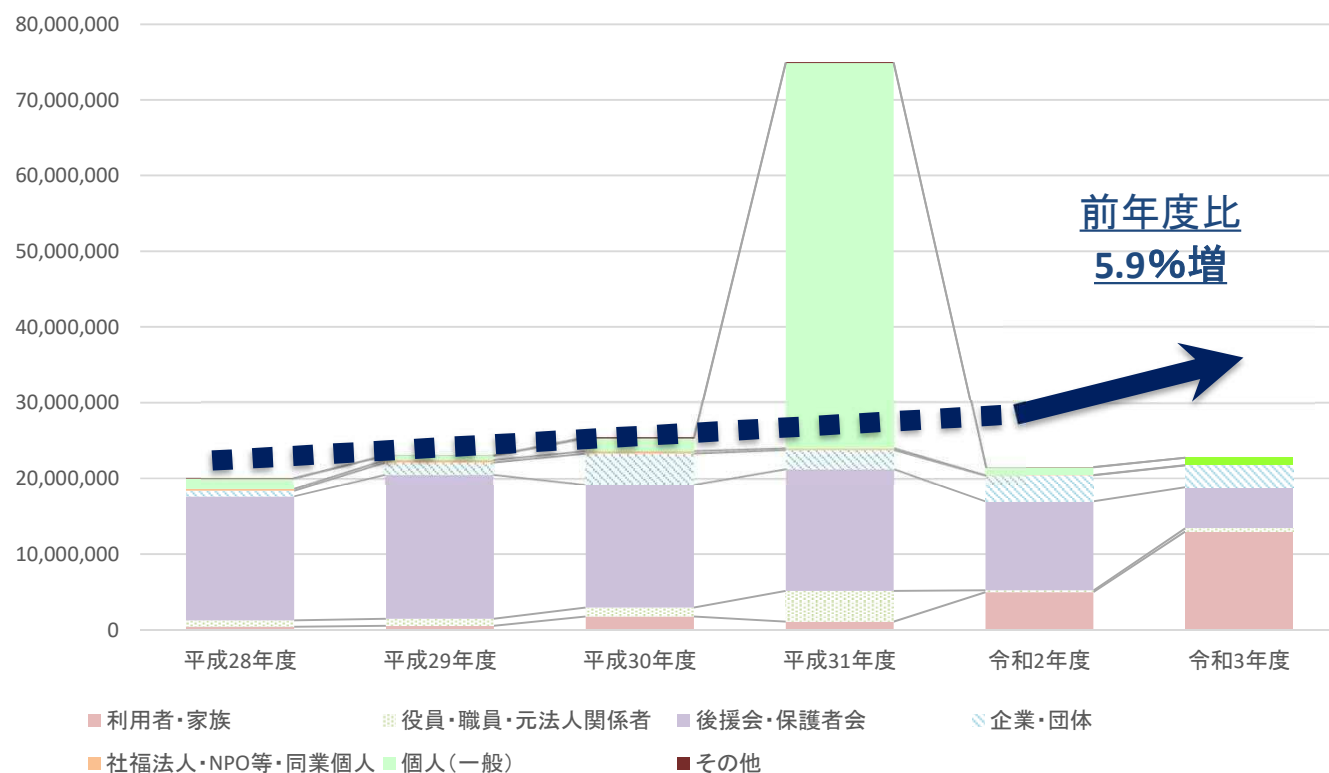


3 寄付金受領状況

□ 寄付金の推移

年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	前年度比(%)
寄付金額	20,095,621	23,051,091	25,447,486	74,979,785	21,494,317	22,757,074	5.9%
(内訳)							
利用者・家族	428,000	525,902	1,764,300	1,118,916	4,982,280	12,995,219	160.8%
役員・職員	835,968	542,454	619,107	3,949,000	210,366	433,277	106.0%
元法人関係者	0	406,657	577,982	96,490	26,525	0	-100.0%
後援会・保護者会	16,390,286	19,066,618	16,264,149	16,110,578	11,756,744	5,414,254	-53.9%
企業・団体	742,808	1,587,342	4,090,300	2,498,966	3,456,942	2,910,824	-15.8%
社福法人・NPO等	152,352	152,583	45,000	54,000	41,000	20,000	-51.2%
個人(同業関係)	100,000	170,000	270,000	183,000	0	0	0.0%
個人(一般)	1,354,070	586,205	1,652,588	50,882,463	980,460	983,500	0.3%
その他	92,137	13,330	164,060	86,372	40,000	0	-100.0%

寄付金受領額の推移



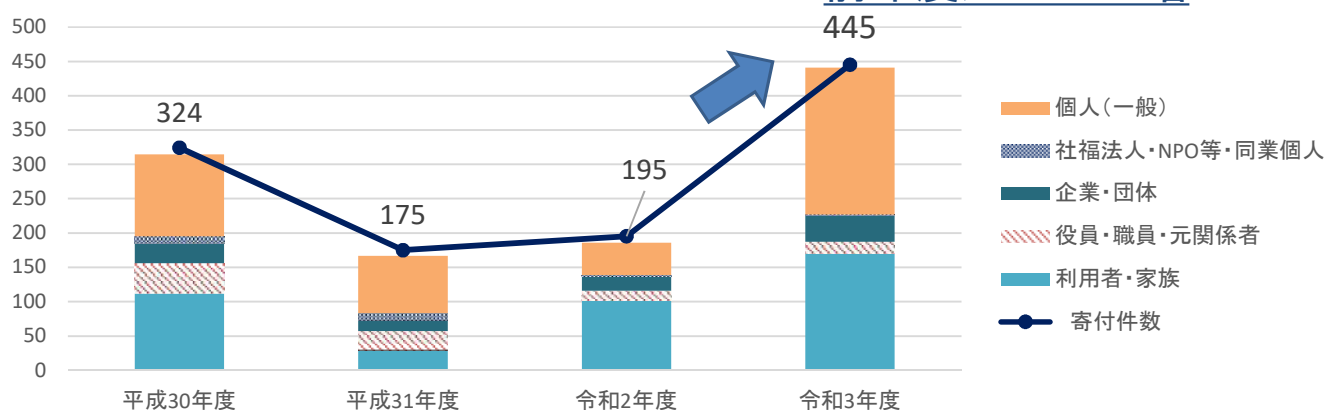
(年度毎での特記事項/特徴点)

- ・今年度より後援会の会員区分見直しにより賛助会員の会費を法人への寄付として個別に受領しているため、寄付者数が大幅に増加しています。
- また、利用者家族等の会員区分も見直しにより、後援会からの寄付額が減少し、利用者家族等からの寄付額が増加しています。

□ 寄付者の推移

年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
寄付件数	58	110	324	175	195	445
(内訳)						
利用者・家族	6	14	112	29	102	170
役員・職員	18	17	31	18	12	15
元法人関係者	0	8	13	10	2	2
後援会・保護者会	7	6	7	7	8	4
企業・団体	7	39	29	16	20	39
社福法人・NPO等	2	5	1	3	3	1
個人(同業関係)	1	4	9	7	0	0
個人(一般)	13	15	120	84	47	214
その他	4	2	2	1	1	0

寄付者(件数)の推移



□ ドナーレンジチャート

【 令和2年度 】

金額帯	寄付者数	金額計	人数比(%)	金額比(%)
200,000円 ～	5人・団体	3,449,566円	2.7%	35.6%
50,000円 ～ 199,999円	59人・団体	4,533,700円	31.7%	46.8%
10,000円 ～ 49,999円	70人・団体	1,528,327円	37.6%	15.8%
5,000円 ～ 9,999円	19人・団体	104,600円	10.2%	1.1%
1円 ～ 4,999円	33人・団体	81,380円	17.8%	0.8%
計	186人・団体	9,697,573円	100.0%	100.0%

【 令和3年度 】

金額帯	寄付者数	金額計	人数比(%)	金額比(%)
200,000円 ～	15人・団体	6,136,789円	3.4%	33.5%
50,000円 ～ 199,999円	74人・団体	9,079,596円	16.6%	49.6%
10,000円 ～ 49,999円	142人・団体	2,294,600円	31.9%	12.5%
5,000円 ～ 9,999円	55人・団体	332,295円	12.4%	1.8%
1円 ～ 4,999円	155人・団体	454,540円	34.8%	2.5%
計	441人・団体	18,297,820円	100.0%	100.0%

※ 後援会、保護者会、職員会からの寄付金は除く

4 地域における公益的取り組みに関する状況等

平成 28 年改正社会福祉法第 24 条第 2 項の規定に基づき、平成 28 年 4 月から、「地域における公益的な取組」の実施が法人の責務として位置づけられました。当法人としても、これまでに培ってきた福祉サービスに関する専門性やノウハウ、地域の関係者とのネットワークを活かしながら、当該取組の実践を通じ地域社会へ貢献していきます。今年度の取り組みについては以下のとおりです。

取組類型	取り組みの名称 (対象者)	目 的	成 果
地域の要支援者に対する配食、見守り、移動支援等の生活支援	かけこみ 110 番の家 (地域小学校の児童)	地域学区の「かけこみ 110 番の家」に登録	登録事業所付近は、店舗も少なく該当もまばらなため、地域の小学生の安心につながる。
	八木山子ども地域食堂	八木山地域で、貧困、孤食等の課題のある家庭への直接的な食事支援のため。	年 3 回実施し、8 世帯への、食事支援を行った。
	フードボックスの設置	フードボックスの設置等を通して生活困窮者の支援や食品ロス解消の循環にかかわる。	フードバンク仙台への食品提供（年 12 回）
地域住民に対する福祉教育	中学校職場体験 (地域中学校の学生)	中学生に福祉の仕事としようがいの理解促進のため、授業に参加し講話する。	活動をとおしてしようがいの理解につながる。
	宮城県小規模法人ネットワーク化協働推進事業への参画（福祉関係者）	若林区内の社会福祉法人とネットワークを形成し、職員育成や地域福祉の向上に努める。	4 法人間による職員交換研修及び報告会の実施（地域ネットワーク力と職員の支援力向上。）
その他	生活困窮者に対する就労体験実習（生活困窮者） 就職氷河期世代への就職相談（就職氷河期世代）	生活困窮者への、就労体験の場を提供し、一般就労に向けた支援を行う。 またハローワークで実施するミニ相談会に参加し、職業相談を実施した。	ミニ相談会では 18 名（うち 4 名が就職氷河期世代）への就職相談へ対応する。

上記取り組みの他、地域向けサロンやイベントを通じ地域の関係者とのネットワーク作りを行い、地域課題の掘り起こしと課題の検討及び情報交換の機会を各事業所で持ちました。今後も新たな地域ニーズに対して積極的に対応していきます。

5 令和3年度 法人会議・委員会実施状況 補足資料

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考
主要会議	経営会議	・事業の遂行管理、財務状況等の確認や方針決定 ・改正女性の職業生活における～法律及び働き方改革に関する諸案件の検討 ・諸規程の改廃 他	諸案件の決定	働き方改革に関する処遇関係。	12回	
	人事委員会	・職員人事全般(職員の任免、処遇及び賃金等の見直しなど) ・ハラスメント対策の強化(相談窓口、職員研修等)に向けた検討 ・メンタル不調者の人事、復職判断等 ・相談支援従事者初任者研修などの受講者人選 ・コロナ感染症に伴う職員の就業及び処遇面等に関する検討 ほか	諸案件の決定	・専門職を含むキャリアパス制度の再構築、他	18回	
	法人衛生委員会	・各事業所における衛生委員会の協議内容や取り組み事例の共有 ・職員健康診断の総括 ・労働環境実態把握・課題抽出など	諸案件に関する全体共有	・時間外労働や休憩時間などの労働環境実態把握と課題改善へ向け取り組む	4回	
	各事業所衛生委員会 (コペル)	・働き方改革(メンタルヘルスの不調の予防と対応・職場復帰支援・ワークライフバランス・時間外労働について)・熱中症対策・腰痛予防・ボディメカニクス・職員の健康管理について・ストレスチェック・インフルエンザ・コロナ対策・ノロウイルス対策・歯と口の健康作り・更年期障害について	・働き方改革を3回にわけて行い、働きやすい職場環境をGWで話し合う。仕事を早く切り上げて定時で帰るよう意識が高くなり、退勤時間の平均が10分短縮された。・腰痛予防ボディメカニクスについて、リハビリ専門学校の先生に講師の依頼をした。とても良い勉強会になった。ノロウイルス対策で職員にガウンの装着方法について研修を行ったため、コロナ感染の際に生かすことができた。	歯と口の健康作りについて、若林区の宅配講座を予定していたが、コロナの影響で中止した。今後どのようにして職員に伝えていくか、勉強会の方法の検討が必要。腰痛を発症している職員が増えたため、腰痛予防を今後どのようにしていくか・検討が必要。職員が少ない中での業務の中でストレスを抱えている職員が増えている。ストレスチェックを実施して今後どう活かして行くかが課題と感じている。	12回	
	同上 (仙台つどいの家)	・職場の労働環境の課題及び対策 ・コロナ感染予防(チェックリスト使用、グループで検討) ・施設内での事故やケガ・職員の健康状況 ほか	・施設内で各グループごとに、感染に対する認識や理解度をチェックし、対応している。 ・労働環境の改善:介護トイレに冷風機を設置し暑さ対策を施した。雨の日の滑り事故防止のため、玄関サンダルを変更。 ・その他、個別の事例について検討。	・コロナ感染予防について(継続) ・労働環境の課題・対策(労働時間・休憩時間等について)。	4回	
	同上 (アブリ)	・肩こり改善ストレッチ、腰痛体操、ラジオ体操の呼びかけ ・休憩時間について ・新型コロナウイルス感染対策について ・備品整理(環境改善)	・一時期体操についてモチベーションが低下したが、衛生委員会で体操の必要性を確認し、職員全体へ呼びかけを行った。朝の体操継続となった。 ・休憩時間に対する意識が高まり、業務を離れることの罪悪感が減った。	・休憩時間や長時間労働の改善には、具体的に取り組めていない。特定の職員が残る傾向は依然としてある。まだ雑然としている箇所があるので、館内の整理整頓は引き続き行う。	4回	
	同上 (八木山つどいの家)	・労働環境、業務改善に向けた取り組み。 ・職場環境改善へのアンケートの実施。	・環境を整備を行うため、物品整理を行った。 ・静養室ではなく、活動スペースで休憩する場所を配置したことで、利用者の皆さんが、スムーズに活動に参加できるようになりました。 ・勤務時間を意識した業務への取り組みができるようになったが、体制の変化により、一部職員への業務過多の課題もありました。 ・看護師が常時勤務していない状況であったが、職員間での工夫や声掛けで感染予防を徹底する取り組みを行っていました。	・業務整理を進め、全職員が勤務時間内に業務を終えられる工夫と職員間のフォロー体制を構築します。 ・嘱託医、看護師と共に感染予防の徹底を進めます。 ・現状の居室では、密になってしまったため新たな発想で、環境整備を行う必要性があります。	4回	
	同上 (若林障害者福祉センター)	・休憩時間 ・熱中症・夏バテ予防対策 ・新型コロナウイルス感染症予防対策 ・感染性胃腸炎 ・自律神経の乱れ	・確実な休憩時間を取得したことにより、めりほりを持ち業務にあたることができた。	・腰痛対策	4回	
	同上 (びぼっと南光台)	・労働環境の整備(休憩、冷暖房設備、事務棟の耐用年数超過など) ・メンタルケア ・感染症対策	・内部研修でメンタルケアをテーマに共通認識の機会を設けた。 ・感染症対策(主に消毒方法)について具体的な流れを確認することができた。	・休憩を取る習慣付けの工夫 ・衛生委員会の内容の周知・共有方法 ・事務棟の耐用年数超過については、別途で話し合う機会を設ける。	12回	
	同上 (びぼっと支倉)	①コロナ感染防止策の強化 ②労働環境の見直し ③老朽化した建物の修繕、美化活動	①支援金でサーキュレーター、空気清浄機等を備え環境を整備 事務室の分散化、在宅勤務を試験的に実施 ②休憩時の電話対応の検討(固定電話留守電、業務用携帯番号周知) 金曜日は昼食をテイクアウトし、地域のお店や福祉系ショップの応援運動 ③定期的な設備点検の実施、朝の清掃運動	①改修工事に伴う仮移転先でのコロナ感染防止策の検討 ②在宅勤務については更なる検討と個人情報取り扱いのルールづくり	4回	

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考
	同上 (ピボット若林)	職員の健康面(メンタルヘルス含)の維持向上等を図る	生活習慣病やメンタルヘルス(「こころの耳働く人のメンタルヘルスポータルサイトより」)を話題とすることで、健康面に対する意識をもつことができた	年間テーマを設定し、ピボット若林/グループホームで一体的に取り組むことができるとよい	2回	
	同上 (グループホーム)	職員の健康面(メンタルヘルス含)の維持向上等を図る	生活習慣病やメンタルヘルス(「こころの耳働く人のメンタルヘルスポータルサイトより」)を話題とすることで、健康面に対する意識をもつことができた	年間テーマを設定し、ピボット若林/グループホームで一体的に取り組むことができるとよい	2回	
	権利擁護・虐待防止委員会	・虐待防止とその対応に関するガイドラインを3年に一度見直しを行なった。 ・意思決定事例集作成し、全職員へ配布した。 ・内部研修研修の立案・実施した。 ・令和4年度に向けての計画(事業所ごと)を検討した。	・ガイドラインの見直しについては、議論を重ねながら見直すことができた。 ・意思決定支援事例集について、内部研修に活用した。 ・通所系・地域系に分かれた内部研修を計画した。 ・虐待防止とその対応に関するガイドラインを中心に、事業所間で実行していくことを確認した。	令和4年度より虐待防止及び身体拘束等の適正化にかかる取り組みについて義務化となる。全職員が研修を受講することが義務化にもなるので、事業所間で創意工夫が必要となる。	6回	日本知的障害者福祉協会にて、虐待防止に関する研修動画配信を開始する。
経営会議系列	事業運営会議	・各事業所の事業運営状況や課題等の共有、検証 ・財務状況の把握と課題検証 ほか	経営会議へ運動、課題への取り組みと実践。		12回	
	防災委員会	・「緊急事態対応マニュアル」の周知・更新 ・防災ネットワーク訓練の計画・実行 ・前年度行ったアンケートを踏まえ、法人防災訓練時、引き渡し訓練を計画する ・緊急事態に伴う諸課題について検討。(台風・崖崩れ・水害・ウイルス等) ・適宜、他委員会・連絡会等と連携する	・緊急事態対応マニュアルの周知を防災委員会内で行いました。 ・シナリオを基にした防災ネットワーク訓練企画・実施しました。 ・法人防災訓練の計画・実行。(各事業所からの状況付与) ・通所事業所において引き渡し訓練を実施しました。 ・各事業所近隣地域における防災の取り組みについて確認を行いました。 ・福祉避難所マニュアルの読み合わせを行いました。	・緊急事態対応マニュアルの周知・精査・要約作成 ・防災ネットワーク訓練計画・実行 ・法人防災訓練の計画・実施。(引き渡し訓練継続) ・感染症や災害等に関する諸課題の検討。(BCP作成等) ・各事業所行動マニュアルの見直し(旧BCP)	5回	
	職員研修委員会	・在任7年目までの職員対象の選択研修の実施 ・非常勤研修の企画・実施 ・実践報告会の実施に向けた検討	選択研修は計画当初の開催年数を達成した為、当該年度で終了。	・実践報告会の開催方法と職員の理解 ・感染症対策上、大人数が1か所に参集しての研修を控えている為、事業所を超えた意見交換の場が少なくなっている。	6回	
	研修体系等検討会	第1回 法人内研修の課題整理 第2回 キャリアパス制度、職員育成プランシートについて 第3回 階層の到達目標、階層別OJT, OFF-JT, SDSについて 第4回 次年度研修計画策定、役割分担	管理者が構成員となり、法人の経営方針をもとに人材育成計画の概要や目的について共有し、研修の全体像を構築した。	各部門ごとに企画した研修を一体的に取り組む第一歩となるため、実施後の調査にて課題と成果の洗い出しと見直しをかけ、成長を促す仕組みを図る。	4回	コロナ感染拡大のため第5回見合わせ
	ICT利活用検討会	・ICT分野における当法人の既存システムの課題抽出及び新規システムの導入検討。	過去の職員へのアンケート調査結果を鑑み、情報共有に関する課題解決を優先。補助金を活用した、法人共有クラウドサーバーの導入及び、GoogleWorkspace for nonprofits(社会福祉法人等無償提供)の導入。	・システム導入後の円滑な運用、サイバーセキュリティ対策など。 ・その他、既存システムの見直し、新規システムの導入等	5回	
	日中活動支援事業部連絡会議	・日中活動支援事業部各事業所の情報共有など →利用者、職員等に関する特記 →各事業所の課題検討 →各種加算取得など制度動向の確認・共有 ほか	・各事業所の利用者・職員・事業所状況の共有により、他事業所の状況をタイムリーに把握できた。 ・法人としての加算取得の考え方など、管理者間で共有できた。	・『日中活動支援事業検討会議』を廃止したため、継続検討事項については連絡会で引き継いで検討する(支援加算・医療的ケア・送迎・給食…)。 ・『事業所間交換研修』について、コロナの状況を注視しながら実施するべく検討。	11回 (web含)	
	地域生活支援事業部連絡会議	地域生活サポートセンター管理者間及び管理者-部長間の情報交換等(現状把握及び諸課題の整理等)	各事業(ヘルプ/短期入所・日中一時支援/相談/グループホーム)の状況について情報交換することができた	特に次年度はびほっと支倉において大規模改修工事が予定されているため、情報共有を図る	11回	

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考
事業運営会議系列	相談支援事業検討会議	相談支援における法人としての今後の事業展開等の検討、その他相談業務における課題検証等 (管理者・チーフ) ・とびら、くれよんそれぞれの支援体制や問い合わせ状況等の確認 ・基幹相談支援センターとの協働について情報共有 ・R3報酬改定に係る加算の勉強会(総務と合同) ・将来的なつどいの家の相談体制についての検討(全体会) ・相談システム導入後の変化やさらなる改善点の共有 ・権利擁護に関する内部研修 ・移行期(学齢～成人、成人～介護保険)に必要な支援の整理	・報酬改定による基本報酬や加算の変更についての共有ができた ・それぞれの経験を基に、移行期に必要な支援を整理しまとめることができた(今後追加・更新は必要) ・検討会議とは別にとびら、くれよんがフランクにやりとりできるよう2か月に1回オンラインでの情報共有を実施した	・将来的なつどいの家の相談支援事業の方向性の検討 ・ケース数、業務量・内容の改善についての検討 ・事業所間の相談員同士のやりとりや支援に役立つ情報共有	5回	
	日中活動支援事業検討会議	・令和3年度報酬改定の確認 ・給食費及び送迎協力金に関する令和2年度の実績共有 ・権利擁護・虐待防止委員会での議論を踏まえ、事業所単位での虐待防止委員会設置や研修のあり方 ・「重度障害者支援加算」及び「喀痰吸引等の実施」のハンドブックについて ・派遣労働者の使用に関して	・制度の変更等について周知事項の確認 ・送迎や給食提供に係わる費用の確認と共有。 ・昨年度作成した「重度障害者支援加算」及び「喀痰吸引等の実施」のハンドブックの見直し。(委員会からの報告及び主担職員との意見交換) ・重度支援加算Ⅱの実施状況・強度行動障害研修履修職員の確認	・日中活動支援事業部連絡会議との共通事項が多いことから、次年度は連絡会にて行うこととする。 ・重度支援加算Ⅱまたは看護師体制加算Ⅲの取得にむけた収入増への取組 ・送迎及び給食の実績共有と費用について検討	5回	
	重度障害者支援加算検討会	・重度支援加算Ⅱの実施状況 ・ハンドブックの見直し ・困難ケースの検討	・中間まとめ、年度末まとめの時期に合わせて、実施状況を確認 ・ハンドブックを、実態に合わせて、分かりやすく改定 ・職員間の情報共有、ケース検討。 ・重度支援加算Ⅱを行っていない事業所も参加することで、法人内での情報共有と制度理解を促進。	・実施状況が各施設に差がある。(計画書の同意書取り交わしやケース会議を行っていない事業所がある) ・困難ケースの検討及び自閉症への支援について勉強会の実施	3回	
	喀痰吸引等実施検討会	・介護職員による喀痰吸引等の実施に伴う法人内事業所間での状況確認、情報共有。ハンドブックの見直しと改定など	・『登録申請手続き等ハンドブック』は、今年度ではほぼ完成した。次年度以降は、必要に応じて改定していく。 ・通所施設以外にヘルパー事業所(ぺんたす)の職員が構成員として入ったため、通所施設以外にヘルパー事業所の状況、法人全体の「介護職員による喀痰吸引等の実施状況」を把握することができ、情報なども交換することが出来た。 ・構成員の「介護職員による喀痰吸引等実施」の考えや思いを話し合うことができ、今後への課題や取り組みについて意見交換が出来た。	・次年度(令和4年度)は、検討会の名称を『医療的ケア検討会』と変更し、協議内容は喀痰吸引等の実施だけでなく、法人内の医療的ケアについて幅広く話し合う。	2回	
	居住支援等事業検討会議	新たなグループホームの創設準備をはじめ、抱える運営面等に関する諸課題の整理検討及び新たな居住支援の場の展開に関する検討	新しいグループホーム開設に向けた準備について候補エリア、開設時期、定員、人材募集等について具体的に話を進めることができた。	開設に向けた取り組むべき事項についての詳細なスケジュールの再考。利用者、家族等への周知等。	5回	
情報交換・連絡	食事サービス従事者連絡会	目的)食事サービス担当者間での情報交換と課題整理を行いながら、安心でより豊かな「食の楽しみ」を提供できるよう連絡連携していく。 ①食支援 ②コスト管理 ③体制管理 ④リスク管理 ⑤その他	主な話題→①偏食傾向のある利用者や嚥下機能低下している利用者についての支援。食事キャンセルがあった際の対応の共有。 ②仕入れ先の情報共有③平野さんがコベルに行き、丹野さんに助言を行う等④グリストラップ清掃、設備の保守、耐震工事、食中毒の予防等	①食支援 ②コスト管理 ③体制管理 ④リスク管理 ⑤その他 ※情報共有、情報交換を中心に行う。 ※食材料費の値上げによる影響について確認	2回	
	PT・OT連絡会	・アプリアOT育休中のため、連絡会は開催せず。コベルに中途入職の阿部PTへの引継ぎ・仙台つどいの家見学を1回行う。			0回	
	看護師連絡会	・コロナ感染症予防の対応・状況共有。 ・健康診断・相談について各事業所の状況確認 ・各施設での利用者の健康状況、事故・ヒヤリの共有 ・最近の医療状況について ・感染症マニュアルの見直しについて	・コロナ感染症について、各事業所の取り組みや最近の状況を共有することで、不足する部分を補完し、共通理解のもと対応できている。 ・各事業所での取り組みや医療状況など、情報を共有することで安心安全なケアにつながる。 ・感染症マニュアルについて、各事業所の実情を踏まえて法人共通レベルの対応に見直しをすることができる。	・コロナ感染症予防・対策 ・各事業所での利用者の健康状況 ・感染症マニュアルの見直し ・医療的ケア指示書等の様式統一	4回	
	サービス管理責任者連絡会	・各生活介護事業所、GHでの情報共有 ・中間、年度末まとめ等の取り扱い(書類の書き方、考え方、表現方法)の共有 ・日々の業務内(書類や記録等)の改善。	・個別支援計画の作成手順の共有を行う事で、各職員が移動したとしても書式など大きな変更点がなくスムーズに取り組めた。 ・各事業所での取り組みなどを確認し、自分の施設でも取り入れ、業務時間の簡略化ができた。	・新規利用者へのオリエンテーション時の書式についての検討。 ・虐待防止委員会の進め方。情報共有。 ・その他随時業務に関わる書式変更など	3回	

部門	会議・委員会名	主たる協議内容	成果など	次年度への課題等	実施回数	備考
学生会	南北グループホーム連絡会	・入居者が関係する日中・地域生活支援従事者間の情報共有等	・日常的な情報共有の再確認と情報のすり合わせを行なった。 ・入居者の支援においてGH、通所が連携して取り組む支援の課題について、協議・検討した。	・前年度の反省を踏まえ開催時期を前倒しにしたことで、有意義に会議を行なうことができたため、次年度も同様の時期で実施したい。 ・GHと通所の職員間で意見交換できる貴重な機会なので、GH職員もできるだけ参加できるとよい。 ・事前の情報整理を早め実施するようにした	12回	
	採用チーム連絡会	・法人の魅力発信 コロナ禍での採用活動の具体化 採用動画の作成 母集団形成方法の検討(学校とのつながり強化) 内定辞退対策の検討	リクルートガイドブックの更新 就職説明会用動画の作成 学卒者10名の採用 内定式の実施	採用動画の作成。 採用時期以外の学生とのかかわり 働きやすい職場づくり	6回	
	総務ミーティング	・業務における情報の共有 ・抱えている課題の共有・検討 ・新たな知識、視点等得るための情報等の提供 など	・事務業務ならびに、法人経営・事業の円滑化。 ・オンラインの活用及び技術の習得。	・研修報告、勉強会の内容の偏り、及び意見交換の導入。	34回	

事業報告の附属明細書

令和３年度事業報告には、社会福祉法施行規則第２条の２５第３項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項はありません。

社会福祉法人 つどいの家
理事長 佐藤 清